



トランスポンダ カードおよびマックス ポンダ カードのプロビジョニング

この章では、トランスポンダ (TXP) カードおよびマックスポンダ (MXP) カードのプロビジョニング方法を説明します。プロビジョニングは、DWDM ネットワークをプロビジョニングして回路を作成する前に実行する必要があります。



(注)

特に指定のないかぎり、「ONS 15454」は ANSI と ETSI の両方のシェルフ アセンブリを意味します。

作業の概要

以降の手順を実行する前に、すべてのアラームを調査して問題となる状況をすべて解決しておいてください。必要に応じて『Cisco ONS 15454 Troubleshooting Guide』または『Cisco ONS 15454 SDH Troubleshooting Guide』を参照してください。



注意

TXP および MXP のプロビジョニングは、サービスに影響することがあります。すべての変更はスケジュールされた保守時間中に行ってください。

ここでは、主要手順 (NTP) について説明します。具体的な作業については、詳細手順 (DLP) を参照してください。

1. [NTP-G128 PPM の管理 \(p.5-3\)](#) : この手順を実行して、マルチレート Pluggable Port Module (PPM; 着脱可能ポート モジュール) のプロビジョニング、PPM の光回線レートのプロビジョニングおよび変更、または PPM の削除を行います。PPM は TXP および MXP カードにファイバインターフェイスを提供します。PPM が使用できないのは TXP_MR_10G だけです。
2. [NTP-G96 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E カードの回線設定および PM パラメータ スレッシュホールドの変更 \(p.5-11\)](#) : 必要に応じてこの手順を実行して、TXP_MR_10G および TXP_MR_10E カードの送信設定を変更します。
3. [NTP-G97 MXP_2.5G_10G カードおよび MXP_2.5G_10E カードの回線設定および PM パラメータ スレッシュホールドの変更 \(p.5-25\)](#) : 必要に応じてこの手順を実行して、MXP_2.5G_10G および MXP_2.5G_10E カードの送信設定を変更します。
4. [NTP-G98 TXP_MR_2.5G カードおよび TXPP_MR_2.5G カードの回線設定および PM パラメータ スレッシュホールドの変更 \(p.5-39\)](#) : 必要に応じてこの手順を実行して、TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G カードの送信設定を変更します。
5. [NTP-G99 MXP_MR_2.5G カードおよび MXPP_MR_2.5G カードの回線設定および PM パラメータ スレッシュホールドの変更 \(p.5-52\)](#) : 必要に応じてこの手順を実行して、MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G カードの送信設定を変更します。

NTP-G128 PPM の管理

目的	この手順を実行して、マルチレート PPM のプロビジョニング、マルチレート PPM の光回線レートのプロビジョニングおよび変更、または PPM の削除を行います。シングルレート PPM が取り付けられている場合は PPM 画面で自動的にプロビジョニングされるため、それ以上作業する必要はありません。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G63 SFP または XFP の取り付け (p.3-50)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



(注)

Small-Form Factor Pluggable (SFP) は、TXP または MXP カードの前面プレートに差し込むハードウェアで、カードにファイバインターフェイスを提供します。CTC では、SFP は PPM と呼ばれます。

- ステップ 1** 「[DLP-G46 CTC へのログイン](#)」(p.2-30) の作業を行い、ネットワーク上の ONS 15454 にログインします。すでにログインしている場合は、ステップ 2 に進みます。
- ステップ 2** **Alarms** タブをクリックします。
- アラーム フィルタ機能がディセーブルになっていることを確認します。必要に応じて、「[DLP-G128 アラーム フィルタのディセーブル化](#)」(p.8-33) を参照してください。
 - 説明のつかない状態がネットワーク上に表示されていないことを確認します。説明のつかない状態が表示されている場合は、作業を進める前に解決してください。『*Cisco ONS 15454 Troubleshooting Guide*』または『*Cisco ONS 15454 SDH Troubleshooting Guide*』を参照してください。
 - 「[DLP-G114 CTC データのエクスポート](#)」(p.8-5) の作業を行い、アラームと状態情報をエクスポートします。
- ステップ 3** 「[DLP-G277 マルチレート PPM のプロビジョニング](#)」(p.5-4) の作業を行います。マルチレイヤ PPM を事前プロビジョニングした場合は ([DLP-G273 SFP または XFP スロットの事前プロビジョニング](#) [p.3-48])、このステップを飛ばして **ステップ 5** に進みます。シングルレート PPM のプロビジョニングは不要です。
- ステップ 4** PPM で IBM External Time Reference – Control Link Oscillator (ETR_CLO)、または InterSystem Coupling link (ISC) サービスをプロビジョニングする場合は、「[DLP-G274 ETR_CLO および ISC サービスのトポロジー検証](#)」(p.5-7) を実行します。それ以外は、**ステップ 5** に進みます。
- ステップ 5** 「[DLP-G278 光回線レートのプロビジョニング](#)」(p.5-5) を実行して TXP または MXP ポートに回線レートを割り当てます。
- ステップ 6** 必要に応じて 「[DLP-G279 光回線レートの変更](#)」(p.5-9) を実行します。表 5-1 (p.5-6) に、TXP および MXP カードで使用可能なレートを示します。
- ステップ 7** 必要に応じて 「[DLP-G280 PPM の削除](#)」(p.5-9) の作業を行います。
- 終了：この手順は、これで完了です。

DLP-G277 マルチレート PPM のプロビジョニング

目的	この作業では、CTC のマルチレート PPM をプロビジョニングします。PPM が「 DLP-G273 SFP または XFP スロットの事前プロビジョニング 」(p.3-48) で事前プロビジョニングされている場合、この作業は必要ありません。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	必須
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



(注)

シングルレート SFP を装着する場合は、PPM 画面で自動的にプロビジョニングされ、それ以上の作業は必要ありません。マルチレート SFP を装着する場合は、この手順に従って手動で PPM 画面のプロビジョニングをする必要があります。これはノードのデフォルトの動作ですが、NE のデフォルト設定を使用して変更できます。NE のデフォルト値の一覧については、[付録 D 「ネットワーク要素のデフォルト値」](#)を参照してください。NE のデフォルト値の編集、インポート、エクスポートについては、[第 13 章 「ノードのメンテナンス」](#)を参照してください。

-
- ステップ 1** ノードビューで、PPM 設定をプロビジョニングする TXP カードまたは MXP カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > Pluggable Port Modules** タブをクリックします。
- ステップ 3** Pluggable Port Module ペインにある **Create** をクリックします。Create PPM ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** Create PPM ダイアログボックスで次の情報を入力します。
- PPM : SFP を装着しているスロットの番号をドロップダウン リストからクリックします。
 - PPM Type : SFP がサポートしているポートの番号をドロップダウン リストからクリックします。1 つのポートだけがサポートされる場合、**PPM (1 port)** が唯一のメニュー オプションです。



(注)

トランクのサービス状態が OOS-MA,DSBLD (ANSI)/Locked-enabled,disabled (ETSI) でのみ、最初のポートを作成できます。

- ステップ 5** **OK** をクリックします。新しく作成されたポートが Pluggable Port Modules ペインに表示されます。Pluggable Port Modules ペインの行がホワイトになり、Actual Equipment Type 欄に機器名が表示されます。
- ステップ 6** Pluggable Port Modules ペインのリストに PPM が表示されていることを確認します。表示されない場合は、[ステップ 3 ~ 5](#) を繰り返します。
- ステップ 7** 作業を繰り返して、2 つめの PPM をプロビジョニングします。
- ステップ 8** **OK** をクリックします。

ステップ 9 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G278 光回線レートのプロビジョニング

目的	この作業では、マルチレート PPM の回線レートをプロビジョニングします。シングルレート PPM のプロビジョニングは不要です。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G277 マルチレート PPM のプロビジョニング (p.5-4) DLP-G274 ETR_CLO および ISC サービスのトポロジー検証 (p.5-7) (ETR_CLO サービスをプロビジョニングしている場合) DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	必須
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノードビューで、PPM ポートをプロビジョニングする TXP カードまたは MXP カードをダブルクリックします。プロビジョニングするデータ レートが、DV-6000、HDTV、ESCON、SDI/D1 Video、ISC-3、ETR_CLO である場合、次のステップを実行します。それ以外の場合は、[ステップ 2](#)に進みます。

- Provisioning > OTN > OTN Lines タブをクリックします。
- G.709 OTN フィールドで、**Disable** を選択します。
- FEC フィールドで、**Disable** を選択します。
- Apply** をクリックします。

ステップ 2 Provisioning > Pluggable Port Modules タブをクリックします。

ステップ 3 Pluggable Ports ペインにある **Create** をクリックします。Create Port ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 Create Port ダイアログボックスで次の情報を入力します。

- Port: ドロップダウン リストから PPM 番号とポート番号をクリックします。最初の番号が PPM を示し、2 つめの番号が PPM 上のポート番号を示します。たとえば、1 つのポートを持つ最初の PPM は 1-1 と表示され、1 つのポートを持つ 2 つめの PPM は 2-1 と表示されます。PPM 番号は 1 ~ 4 ですが、ポート番号は常に 1 となります。
- Port Type: ドロップダウン リストから、ポートのタイプをクリックします。ポート タイプメニューには、PPM でサポートされるポートのレートが表示されます。TXP カードまたは MXP カードでサポートされるレートの定義については、[表 5-1](#) を参照してください。

ステップ 5 **OK** をクリックします。

ステップ 6 必要に応じて [ステップ 3](#) ~ [ステップ 5](#) を繰り返し、ポートのレートを設定します。

表 5-1 PPM ポート タイプ

カード	ポート タイプ
TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G	<ul style="list-style-type: none"> • OC-3/STM1 — 155 Mbps • OC-12/STM4 — 622 Mbps • OC-48/STM16 — 2.48 Gbps • ONE_GE — 1 ギガビット イーサネット 1.125 Gbps • ESCON — Enterprise System Connection (IBM 信号) • DV6000 — ビデオ ベンダー独自の信号 • SDI_D1_VIDEO — シリアル デジタル インターフェイスおよびデジタル ビデオ信号タイプ 1 • HDTV — High-Definition Television (HDTV; 高精細度テレビ) • PASS-THRU — 指定なし • FC1G — ファイバ チャンネル 1.06 Gbps • FC2G — ファイバ チャンネル 2.125 Gbps • FICON1G — ファイバ CON 1.06 Gbps (IBM 信号) • FICON2G — ファイバ CON 2.125 Gbps (IBM 信号) • ETR_CLO — External Time Reference – Control Link Oscillator (外部時間参照 – コントロール リンク オシレータ) • ISC compat — InterSystem Coupling リンク 1 (ISC1) • ISC peer — InterSystem Coupling リンク 3 (ISC3)
MXP_2.5G_10G および MXP_2.5G_10E	<ul style="list-style-type: none"> • OC-48/STM16 — 2.48 Gbps
TXP_MR_10E	<ul style="list-style-type: none"> • OC-192/STM-64 — 10 Gbps • 10G Ethernet LAN Phy — 10 Gbps イーサネット • 10G Fiber Channel — 10 Gbps ファイバ チャンネル
MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G	<ul style="list-style-type: none"> • FC1G — ファイバ チャンネル 1.06 Gbps • FC2G — ファイバ チャンネル 2.125 Gbps • FICON1G — ファイバ CON 1.06 Gbps (IBM 信号) • FICON2G — ファイバ CON 2.125 Gbps (IBM 信号) • ONE_GE — 1 ギガビット イーサネット 1.125 Gbps



(注) TXP_MR_10G は、PPM を受け付けない唯一の TXP または MXP カードです。

ステップ 7 **OK** をクリックします。Pluggable Ports ペインの行がライトブルーになり、実際の SFP が装着されるとホワイトに変わります。

ステップ 8 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G274 ETR_CLO および ISC サービスのトポロジー検証

目的	この作業では、DWDM ネットワーク トポロジーが IBM ETR_CLO および ISC サービスをサポートできるかどうか検証します。これらのサービスをすべての DWDM トポロジーでプロビジョニングすることはできません。
ツール / 機器	Cisco MetroPlanner サイト計画
事前準備手順	なし
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 Cisco MetroPlanner のサイト計画を表示します。

ステップ 2 ETR_CLO または ISC サービスを実行する予定のトポロジーが、これらのサービスをサポートできるかどうか検証します。

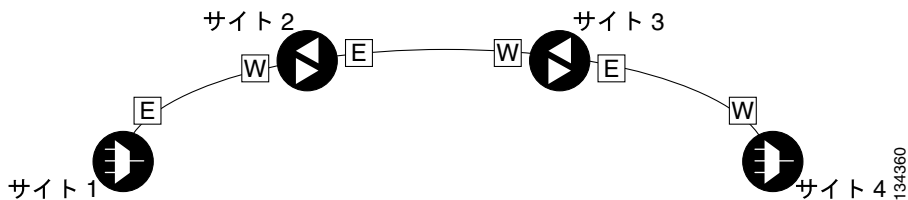
- シングル スパン : 32MUX-O および 32DMX-O カードが取り付けられた 2 つの終端サイト (間に中間サイトがない)。図 5-1 に、Cisco MetroPlanner のシングル スパン トポロジーを示します。

図 5-1 シングル スパン トポロジー



- ポイントツーポイント : 32MUX-O および 32DMX-O カードが取り付けられた 2 つの終端サイト。回線サイトは終端サイト間に設置できますが、中間サイトは設置できません。図 5-2 に、Cisco MetroPlanner のポイントツーポイント トポロジーを示します。

図 5-2 ポイントツーポイント トポロジー



- 2 つのハブ : 32MUX-O および 32DMX-O カードが取り付けられたリング内の 2 つのハブ ノード。回線増幅器をハブ間に設置できます。図 5-3 に、回線増幅器ノードを設置していない 2 つのハブ ノードを示します。

図 5-3 回線増幅器を設置していないハブ

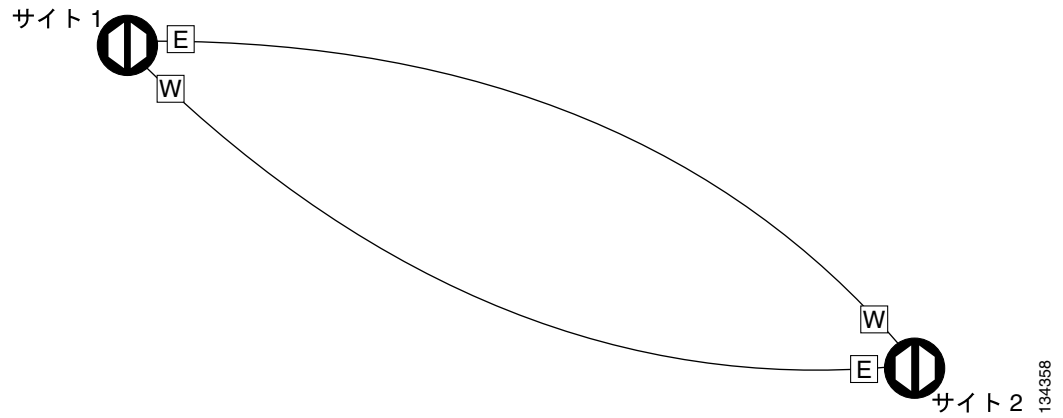
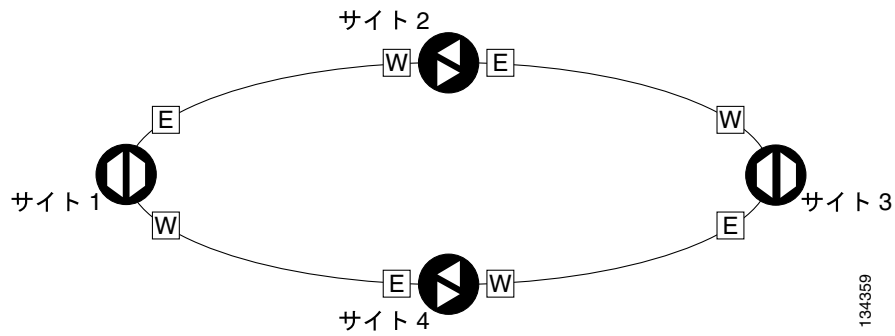


図 5-4 に、回線増幅器ノードが設置された 2 つのハブ ノードを示します。

図 5-4 回線増幅器を設置しているハブ



ステップ 3 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G279 光回線レートの変更

目的	この作業では、TXP カードおよび MXP カードの PPM ポートのレートを編集します。この作業は、すでにプロビジョニングされているマルチレート PPM のポートのレートを変更する場合に実行します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G277 マルチレート PPM のプロビジョニング (p.5-4) DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

-
- ステップ 1** ノードビューで、PPM ポートのレートを編集する TXP カードまたは MXP カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > Pluggable Port Modules** タブをクリックします。
- ステップ 3** Pluggable Ports ペインで、レートを変更するポートをクリックします。強調表示がダークブルーに変化します。
- ステップ 4** **Edit** をクリックします。Edit Port Rate ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 5** Change To フィールドで、ドロップダウン リストを使用してポートの新しいレートを選択し、**OK** をクリックします。[表 5-1 \(p.5-6\)](#) に使用できるレートを示します。
- ステップ 6** Confirm Port Rate Change ダイアログボックスで **Yes** をクリックします。
- ステップ 7** 元の手順 (NTP) に戻ります。
-

DLP-G280 PPM の削除

目的	この作業では、TXP カードまたは MXP カードに取り付けられている SFP または XFP の PPM のプロビジョニングを削除します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G63 SFP または XFP の取り付け (p.3-50) または DLP-G273 SFP または XFP スロットの事前プロビジョニング (p.3-48)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



(注) この作業は、TXP_MR_10G カードには適用できません。

ステップ 1 ノードビューで、PPM の設定を削除する TXP カードまたは MXP カードをダブルクリックします。

ステップ 2 **Provisioning > Pluggable Port Modules** タブをクリックします。

ステップ 3 PPM および関連ポートを削除するには、次の手順を実行します。



(注) クライアントが IS-NR (ANSI)/Unlocked-enabled (ETSI) サービス状態の場合、保護グループの一部である場合、GCC を使用中の場合、タイミング ソースとして使用されている場合、回路を保有している場合、またはオーバーヘッド回路を保有している場合は、ポートは削除できません。トランクがサービス中で、クライアントが OOS-MA,DSBLD(ANSI)/Locked-enabled,disabled (ETSI) サービス状態の場合、ポート（最後のポート以外）を削除できます。トランクのサービスが OOS-MA,DSBLD (ANSI)/Locked-enabled,disabled (ETSI) 状態の場合のみ、最後のポートを削除できます。

- a. **Pluggable Port Modules** ペインに表示される PPM 回線をクリックします。強調表示がダークブルーに変化します。
- b. **Delete** をクリックします。Delete PPM ダイアログボックスが表示されます。
- c. **Yes** をクリックします。PPM のプロビジョニングが、Pluggable Port Modules ペインと Pluggable Ports ペインから削除されます。

ステップ 4 PPM のプロビジョニングが削除されたことを確認します。

- PPM を事前にプロビジョニングした場合は、削除後に CTC に空きスロットが表示されます。
- PPM のプロビジョニングを削除する際に SFP または XFP が物理的に存在する場合、CTC は削除状態に移行し、ポートがあれば削除され、PPM は CTC 内でグレーの図で表示されます。この SFP または XFP は CTC 内で再度プロビジョニングできるほか、機器自体を削除することもできます。削除すると、図は表示されなくなります。

ステップ 5 PPM ハードウェア (SFP または XFP) を取り外す場合は、「[DLP-G64 SFP または XFP の取り外し](#)」(p.3-51) を実行します。

ステップ 6 元の手順 (NTP) に戻ります。

NTP-G96 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E カードの回線設定および PM パラメータ スレッシュホールドの変更

目的	この手順では、TXP_MR_10G および TXP_MR_10E カードの回線およびスレッシュホールドの設定を変更します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	NTP-G32 トランスポンダカードおよびマックスポンダカードの取り付け (p.3-46) DLP-G63 SFP または XFP の取り付け (p.3-50) DLP-G277 マルチレート PPM のプロビジョニング (p.5-4) (必要に応じて)
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



(注) TXP_MR_10G カードは PPM をサポートしません。

ステップ 1 トランスポンダカードの設定を変更するノードで、「DLP-G46 CTC へのログイン」(p.2-30) の作業を行います。すでにログインしている場合は、ステップ 2 に進みます。

ステップ 2 必要に応じて、「NTP-G103 データベースのバックアップ」(p.13-3) を実行して既存の送信設定を保存します。

ステップ 3 必要に応じて次の作業を行います。

- DLP-G216 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E カードの設定の変更 (p.5-12)
- DLP-G217 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E カードの回線設定の変更 (p.5-13)
- DLP-G219 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E カードの回線スレッシュホールド設定の変更 (p.5-18)
- DLP-G301 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E のトランクポートアラームと TCA スレッシュホールドのプロビジョニング (p.5-19)
- DLP-G302 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E のクライアントポートアラームと TCA スレッシュホールドのプロビジョニング (p.5-20)
- DLP-G218 TXP_MR_10G カードのセクショントレースの設定の変更 (p.5-16)
- DLP-G221 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E カードの OTN 設定の変更 (p.5-21)

ステップ 4 必要に応じて「NTP-G103 データベースのバックアップ」(p.13-3) に記載の作業を行います。

終了：この手順は、これで完了です。

DLP-G216 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E カードの設定の変更



目的	この作業では、TXP_MR_10G および TXP_MR_10E マルチレート (10 Gbps) トランスポンダ カードの設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノード ビューで、カードの設定を変更する TXP_MR_10G カードまたは TXP_MR_10EG カードをダブルクリックします。

ステップ 2 Provisioning > Card タブをクリックします。

ステップ 3 [表 5-2](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。

表 5-2 TXP_MR-10G および TXP_MR_10E カードの設定

パラメータ	内容	オプション : ONS 15454	オプション : ONS 15454 SDH
Termination Mode	動作モードを設定します。詳細については、「 16.12 終端モード 」(p.16-118)を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> Transparent Section (TXP_MR_10E の場合のみ) Line 	<ul style="list-style-type: none"> Transparent Regeneration Section (TXP_MR_10E の場合のみ) Multiplex Section
AIS/Squelch Configuration	(TXP_MR_10E のみ) 透過的な終端モードの設定を行います。	<ul style="list-style-type: none"> Squelch AIS 	<ul style="list-style-type: none"> Squelch AIS
Wavelength	DWDM 側の光トランスミッタの波長を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 調整可能な最初の波長 その他の波長 (ITU 準拠の 100 GHz 間隔) サポートされている波長はホワイトで表示され、アスタリスク (**) のマークが付けられます。サポートされていない波長はグレーで表示されます。 <p> (注) 使用できる 4 つの波長はウィンドウの Card Parameters セクションに表示されます。また、Maintenance > Info サブタブをクリックすることでも表示できます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調整可能な最初の波長 その他の波長 (ITU 準拠の 100 GHz 間隔) サポートされている波長はホワイトで表示され、アスタリスク (**) のマークが付けられます。サポートされていない波長はグレーで表示されます。 <p> (注) 使用できる 4 つの波長はウィンドウの Card Parameters セクションに表示されます。また、Maintenance > Info サブタブをクリックすることでも表示できます。</p>

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G217 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E カードの回線設定の変更

目的	この作業では、TXP_MR_10G および TXP_MR_10E トランスポンダカードの回線設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノード ビューで、回線設定を変更する TXP_MR_10G および TXP_MR_10E カードをダブルクリックします。

ステップ 2 **Provisioning > Line > SONET (including 10G Ethernet WAN phy)** タブをクリックします。

ステップ 3 [表 5-3](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。



(注) [表 5-3](#) に示すパラメータ タブは、必ずしも TXP_MR_10G カードと TXP_MR_10E カードの両方に当てはまるとは限りません。適用できないタブは CTC に表示されません。

表 5-3 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E トランスポンダカードの回線設定

パラメータ	内容	オプション : ONS 15454	オプション : ONS 15454 SDH
Port	(表示専用) ポート番号を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> 1-1 (OC192) 2 (トランク) 	<ul style="list-style-type: none"> 1-1 (STM64) 2 (トランク)
Port Name	指定したポートに名前を割り当てます。	ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトはブランクです。 「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」(p.7-10) を参照してください。	ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトはブランクです。 「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」(p.7-10) を参照してください。
Admin State	ポートのサービス状態を設定します (ネットワークの状態によっては変更できない場合もあります)。管理状態の詳細については、 付録 C 「DWDM カードの管理状態とサービス状態」 を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> IS IS,AINS OOS,DSBLD OOS,MT 	<ul style="list-style-type: none"> Unlocked Unlocked,automaticInService Locked,disabled Locked,maintenance

表 5-3 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E トランスポンダカードの回線設定 (続き)

パラメータ	内容	オプション : ONS 15454	オプション : ONS 15454 SDH
Service State	自律的に生成された状態を判別します (この状態が、ポートの全般的な状態となります)。Service State の表示形式は、Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State です。サービス状態の詳細については、付録 C 「DWDM カードの管理状態とサービス状態」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> IS-NR OOS-AU,AINS OOS-MA,DSBLD OOS-MA,MT 	<ul style="list-style-type: none"> Unlocked-enabled Unlocked-disabled, automaticInService Locked-enabled,disabled Locked-enabled,maintenance
SF BER	(TXP_MR_10G のみ) 信号損失ビットエラー レートを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 1E-3 1E-4 1E-5 	<ul style="list-style-type: none"> 1E-3 1E-4 1E-5
SD BER	(TXP_MR_10G のみ) 信号劣化ビットエラー レートを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 1E-5 1E-6 1E-7 1E-8 1E-9 	<ul style="list-style-type: none"> 1E-5 1E-6 1E-7 1E-8 1E-9
AINS Soak	(TXP_MR_10G のみ) オートイン サービスのソーク期間の設定。時間をダブルクリックし、上下の矢印を使用して、設定を変更します。	<ul style="list-style-type: none"> hh:mm 形式で表された有効な入力信号の存続期間。この期間を経過したあと、カードは自動的にインサービス (IS) に設定されます。 0 ~ 48 時間 (15 分刻み) 	<ul style="list-style-type: none"> hh:mm 形式で表された有効な入力信号の存続期間。この期間を経過したあと、カードは自動的にインサービス (IS) に設定されます。 0 ~ 48 時間 (15 分刻み)
Type	(TXP_MR_10G のみ) 光転送タイプ	<ul style="list-style-type: none"> SONET 	<ul style="list-style-type: none"> SDH

表 5-3 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E トランスポンダカードの回線設定 (続き)

パラメータ	内容	オプション : ONS 15454	オプション : ONS 15454 SDH
ALS Mode	自動レーザー遮断機能モードを設定します。DWDM トランスミッタは、ITU-T G.644 (06/99) に従って ALS をサポートします。ALS は、ディセーブルにするか、3 通りのモード オプションに設定できます。	<ul style="list-style-type: none"> Disable (デフォルト) : ALS はオフです。トラフィックの停止 (LOS) が発生しても、レーザーが自動的に遮断されることはありません。 Auto Restart : ALS はオンです。トラフィックの停止 (LOS) が発生すると、レーザーは自動的に遮断されます。停止の原因となった状態が解消されると、レーザーは自動的に再起動されます。 Manual Restart : ALS はオンです。トラフィックの停止 (LOS) が発生すると、レーザーは自動的に遮断されます。ただし、停止の発生状態の解消後、レーザーを手動で再起動する必要があります。 Manual Restart for Test : テスト用に手動でレーザーを再起動させます。 	<ul style="list-style-type: none"> Disable (デフォルト) : ALS はオフです。トラフィックの停止 (LOS) が発生しても、レーザーが自動的に遮断されることはありません。 Auto Restart : ALS はオンです。トラフィックの停止 (LOS) が発生すると、レーザーは自動的に遮断されます。停止の原因となった状態が解消されると、レーザーは自動的に再起動されます。 Manual Restart : ALS はオンです。トラフィックの停止 (LOS) が発生すると、レーザーは自動的に遮断されます。ただし、停止の発生状態の解消後、レーザーを手動で再起動する必要があります。 Manual Restart for Test : テスト用に手動でレーザーを再起動させます。
ProvidesSync	(TXP_MR_10E、OC192 のみ) ProvidesSync カード パラメータを設定します。オンにすると、カードはネットワーク要素のタイミング基準としてプロビジョニングされます。	オンまたはオフ	オンまたはオフ
SyncMsgIn	(TXP_MR_10E、OC192 のみ) EnableSync カード パラメータを設定します。同期ステータスメッセージ (S1 バイト) をイネーブルにし、ノードで最適なタイミングソースを選択できるようにします。	オンまたはオフ	オンまたはオフ
Send DoNotUse	(TXP_MR_10E、OC192 のみ) Send DoNotUse カード状態を設定します。オンにすると、S1 バイトで DUS (do not use) メッセージが送信されます。	オンまたはオフ	オンまたはオフ
Max Size	(TXP_MR_10E、10_GE のみ) 最大イーサネット パケットサイズを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 1548 バイト Jumbo (64 ~ 9,216 バイト) 	<ul style="list-style-type: none"> 1548 バイト Jumbo (64 ~ 9,216 バイト)
Incoming MAC Address	(TXP_MR_10E、10_GE のみ) 着信 MAC アドレスを設定します。	MAC アドレス値。16 進形式で 6 バイトの値です。	MAC アドレス値。16 進形式で 6 バイトの値です。

表 5-3 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E トランスポンダカードの回線設定 (続き)

パラメータ	内容	オプション : ONS 15454	オプション : ONS 15454 SDH
Wavelength	クライアント ポートの波長を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> 調整可能な最初の波長 その他の波長 : 1310 nm、 1550 nm ITU 準拠の 100 GHz 間隔 CWDM 間隔 サポートされている波長はアスタリスク (**) のマークが付けられます。 	<ul style="list-style-type: none"> 調整可能な最初の波長 その他の波長 : 1310 nm、 1550 nm ITU 準拠の 100 GHz 間隔 CWDM 間隔 サポートされている波長はアスタリスク (**) のマークが付けられます。
Reach	クライアント ポートの光の到達距離を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> Reach オプションは、選択されたトラフィック タイプによって異なります。 	<ul style="list-style-type: none"> Reach オプションは、選択されたトラフィック タイプによって異なります。

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G218 TXP_MR_10G カードのセクション トレースの設定の変更

目的	この作業では、TXP_MR_10G トランスポンダカードのセクション トレースの設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



(注) PPM または OC192 PPM がプロビジョニングされていない場合のみ、Section Trace タブは TXP_MR_10G カードで使用できます。TEN_GE または FC10G PPM がプロビジョニングされている場合は、このタブは使用できません。

ステップ 1 ノード ビューで、セクション トレースの設定を変更する TXP_MR_10G カードをダブルクリックします。

ステップ 2 Provisioning > Line > Section Trace タブをクリックします。

ステップ 3 [表 5-4](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。

表 5-4 TXP_MR_10G トランスポンダカードのセクショントレースの設定

パラメータ	内容	オプション : ONS 15454	オプション : ONS 15454 SDH
Port	ポート番号を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 1-1 (OC192) 2 (トランク) 	<ul style="list-style-type: none"> 1-1 (STM64) 2 (トランク)
Trace Mode	トレースモードを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> Off/None Manual 	<ul style="list-style-type: none"> Off/None Manual
Section Trace String Size	トレースの文字列サイズを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 1 バイト 16 バイト 	<ul style="list-style-type: none"> 1 バイト 16 バイト
Transmit	現在の伝送文字列の表示、および新規の伝送文字列の設定。Hex Mode または ASCII Mode のボタンを選択して、文字列入力タイプを変更できます。	トレース文字列サイズの文字列	トレース文字列サイズの文字列
Expected	現在の予測文字列の表示、および新規の予測文字列の設定。Hex Mode または ASCII Mode のボタンを選択して、文字列入力タイプを変更できます。	トレース文字列サイズの文字列	トレース文字列サイズの文字列
Received	(表示専用) 現在の受信文字列を表示します。Refresh をクリックして表示を手動でリフレッシュするか、Auto-refresh every 5 sec チェックボックスをオンにしてこのパネルが常に更新されるようにできます。	トレース文字列サイズの文字列	トレース文字列サイズの文字列

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G219 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E カードの回線スレッシュホールド設定の変更

目的	この作業では、TXP_MR_10G および TXP_MR_10E トランスポンダカードの回線スレッシュホールド設定を変更します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



(注) PPM または OC192 PPM がプロビジョニングされていない場合のみ、Line Thresholds タブは TXP_MR_10E カードで使用できます。TEN_GE または FC10G PPM がプロビジョニングされている場合は、この設定は使用できません。

- ステップ 1** ノード ビューで、回線スレッシュホールドの設定を変更する TXP_MR_10G および TXP_MR_10E カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** Provisioning > Line Thresholds タブをクリックします。
- ステップ 3** 表 5-5 に示す設定を、必要に応じて変更します。

表 5-5 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E トランスポンダカードの回線スレッシュホールド設定

パラメータ	内容	オプション : ONS 15454	オプション : ONS 15454 SDH
Port	(表示専用) ポート番号	<ul style="list-style-type: none"> 1-1 (OC192) 2 (トランク) 	<ul style="list-style-type: none"> 1-1 (STM64) 2 (トランク)
CV	符号化違反	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、回線 (遠端のみ)、回線、またはセクションのいずれかに対して設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、多重化セクション (遠端のみ)、Multiplex セクション、Regeneration セクションのいずれかに対して設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
ES	エラー秒数	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、回線 (遠端のみ)、回線、またはセクションのいずれかに対して設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、多重化セクション (遠端のみ)、Multiplex セクション、Regeneration セクションのいずれかに対して設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
SES	重大エラー秒数	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、回線 (遠端のみ)、回線、またはセクションのいずれかに対して設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、多重化セクション (遠端のみ)、Multiplex セクション、Regeneration セクションのいずれかに対して設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。

表 5-5 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E トランスポンダカードの回線スレッシュホールド設定 (続き)

パラメータ	内容	オプション : ONS 15454	オプション : ONS 15454 SDH
SEFS	(セクションのみ) 重大エラーフレーム秒数	数値。15分または1日間隔で、セクションのみに設定できます (遠端のみ)。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。	数値。15分または1日間隔で、 Regeneration セクションのみに設定できます (遠端のみ)。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
FC	障害カウント	数値。近端または遠端、15分または1日間隔、回線 (遠端のみ)、回線、またはセクションのいずれかに対して設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。	数値。近端または遠端、15分または1日間隔、 Regeneration セクションのいずれかに対して設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
UAS	使用不可秒数	数値。近端または遠端、15分または1日間隔、回線 (遠端のみ)、回線、またはセクションのいずれかに対して設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。	数値。近端または遠端、15分または1日間隔、 Regeneration セクションのいずれかに対して設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。

ステップ 4 **Apply** をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G301 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E のトランクポートアラームと TCA スレッシュホールドのプロビジョニング

目的	この作業では、TXP_MR_10G および TXP_MR_10E のトランクポートアラームと Threshold Cross Alert (TCA) スレッシュホールドをプロビジョニングします。
ツール/機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティレベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノードビューで、トランクポートアラームと TCA 設定を変更する TXP_MR_10G または TXP_MR_10E カードをダブルクリックします。

ステップ 2 **Provisioning > Optical Thresholds** タブをクリックします。

ステップ 3 [表 5-6](#) を参照しながら、RX Power High、RX Power Low、TX Power High、TX Power Low のトランクポート TCA スレッシュホールドをプロビジョニングします。

ステップ 4 **Apply** をクリックします。

表 5-6 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E のトランク ポート アラームと TCA スレッシュホールド

カード	Alarm RX Power Low	Alarm RX Power High	TCA RX Power Low	TCA RX Power High	Alarm TX Power Low	Alarm TX Power High	TCA TX Power Low	TCA TX Power High
TXP_MR_10G	-24 dBm	-8 dBm	-22 dBm	-8 dBm	2 dBm	4 dBm	-1 dBm	7 dBm
TXP_MR_10E	-20 dBm	-8 dBm	-18 dBm	-9 dBm	3 dBm	7 dBm	0 dBm	9 dBm

ステップ 5 Types の下で、**Alarm** オプション ボタンをクリックし、次に **Refresh** をクリックします。

ステップ 6 表 5-6 を参照しながら、RX Power High、RX Power Low、TX Power High、TX Power Low のトランク ポート アラーム スレッシュホールドをプロビジョニングします。

ステップ 7 Apply をクリックします。

ステップ 8 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G302 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E のクライアント ポート アラームと TCA スレッシュホールドのプロビジョニング

目的	この作業では、TXP_MR_10G および TXP_MR_10E カードのクライアント ポート アラームと TCA スレッシュホールドをプロビジョニングします。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G278 光回線レートのプロビジョニング (p.5-5) DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	必須
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノード ビューで、クライアント ポート アラームと TCA 設定を変更する TXP_MR_10G または TXP_MR_10E カードをダブルクリックします。

ステップ 2 **Provisioning > Optics Thresholds** タブをクリックします。TCA スレッシュホールドはデフォルトで表示されます。

ステップ 3 表 5-7 を参照しながら、反対側にあるクライアント インターフェイスに基づいた RX Power High、RX Power Low、TX Power High、TX Power Low の TCA スレッシュホールドをプロビジョニングします。クライアント SFP および XFP のインターフェイス (PPM) に関する詳細は、『Cisco ONS 15454 Reference Manual』の「Hardware Specifications」の章を参照してください。

ステップ 4 Apply をクリックします。

表 5-7 クライアント インターフェイス アラームおよび TCA スレッシュホールド : TXP_MR_10E および TXP_MR_10G カード

ポート タイプ (CTC)	PPM (XFP)	Alarm RX Power Low	Alarm RX Power High	Alarm TX Power Low	Alarm TX Power High	TCA RX Power Low	TCA RX Power High	TCA TX Power Low	TCA TX Power High
SONET (または SDH)	TXP_MR_10E は ONS-XC-10G-S1 を使用	-14	2	-9	2	-11	-1	-12	5
	TXP_MR_10G (XFP 非搭載)	-14	2	-9	2	-11	-1	-12	5
10G Ethernet LAN Phy	TXP_MR_10E は ONS-XC-10G-S1 を使用	-17	4	-9	2	-14	1	-12	5
	TXP_MR_10G (XFP 非搭載)	-17	4	-9	2	-14	1	-12	5
10G Ethernet WAN PHY	TXP_MR_10E は ONS-XC-10G-S1 を使用	-17	4	-9	2	-14	1	-12	5
	TXP_MR_10G (XFP 非搭載)	-17	4	-9	2	-14	1	-12	5

ステップ 5 Types の下で、**Alarm** オプション ボタンをクリックし、次に **Refresh** をクリックします。

ステップ 6 表 5-7 を参照しながら、プロビジョニングするクライアントインターフェイスに基づいた RX Power High、RX Power Low、TX Power High、TX Power Low のアラーム スレッシュホールドをプロビジョニングします。

ステップ 7 **Apply** をクリックします。

ステップ 8 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G221 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E カードの OTN 設定の変更

目的	この作業では、TXP_MR_10G および TXP_MR_10E トランスポンダカードの回線の Optical Transport Network (OTN; 光転送ネットワーク) の設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノード ビューで、OTN の設定を変更する TXP_MR_10G または TXP_MR_10E カードをダブルクリックします。

ステップ 2 Provisioning > OTN サブタブの 1 つ (OTN Lines、G.709 Thresholds、FEC Thresholds、Trail Trace Identifier) をクリックします。

ステップ 3 表 5-8 ～ 5-11 に示す設定を、必要に応じて変更します。

表 5-8 に、Provisioning > OTN > OTN Lines タブをクリックした場合の設定を示します。

表 5-8 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E トランスポンダカードの OTN 設定

パラメータ	内容	オプション
Port #	(表示専用) ポート番号	2
G.709 OTN	ITU-T G.709 に従って OTN 回線を設定します。イネーブルにするにはチェックボックスをオンにします。	<ul style="list-style-type: none"> オン オフ
FEC	OTN 回線の FEC モードを設定します。FEC モードはディセーブルまたはイネーブルにできます。拡張 FEC モードをイネーブルにすることもできます (範囲の拡大とビット エラー レートの低減のため)。	<ul style="list-style-type: none"> Enabled: (TXP_MR_10G のみ) FEC がイネーブルになります。 Disabled: FEC がディセーブルになります。 Standard: (TXP_MR_10E のみ) Standard FEC がイネーブルになります。 Enhanced: (TXP_MR_10E のみ) Enhanced FEC がイネーブルになります。
SD BER	信号劣化ビット エラー レートを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 1E-5 1E-6 1E-7 1E-8 1E-9
Asynch/ Synch Mapping	(TXP_MR_10E のみ) ITU-T G.709 に準拠した多重化を実行できます。この設定を使って、ODUk (クライアント SONET/SDH ペイロード) を、非同期または同期で Optical Channel (OTUk) にマッピングできます。	<ul style="list-style-type: none"> 非同期マッピング 同期マッピング

表 5-9 に、Provisioning > OTN > G.709 Thresholds タブをクリックした場合の設定を示します。

表 5-9 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E トランスポンダカードの ITU-T G.709 スレッシュホールド設定

パラメータ	内容	オプション
Port	(表示専用) ポート番号	2
ES	重大エラー秒数。2 種類のスレッシュホールドをアサートできます。SM (OTUk) オプション ボタンを選択すると、OTUk を使用して、FEC とオーバーヘッド管理とパフォーマンス モニタリングを選択します。PM オプション ボタンを選択すると、ODUk を使用して、パスのパフォーマンス モニタリングを選択します。	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは SM (OTUk) または PM (ODUk) に設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
SES	重大エラー秒数	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは SM (OTUk) または PM (ODUk) に設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
UAS	使用不可秒数	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは SM (OTUk) または PM (ODUk) に設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
BBE	バックグラウンドブロック エラー	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは SM (OTUk) または PM (ODUk) に設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
FC	障害カウンタ	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは SM (OTUk) または PM (ODUk) に設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。

表 5-10 に、Provisioning > OTN > FEC Thresholds タブをクリックした場合の設定を示します。

表 5-10 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E トランスポンダカードの FEC スレッシュホールド設定

パラメータ	内容	オプション
Port	(表示専用) ポート番号とオプションの名前を表示します。	2
Bit Errors Corrected	選択した期間内に訂正されたビットエラーの数を表示します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。
Uncorrectable Words	選択した期間内に訂正できなかったワード数を表示します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。

表 5-11 に、Provisioning > OTN > Trail Trace Identifier タブをクリックした場合の設定を示します。

表 5-11 TXP_MR_10G および TXP_MR_10E トランスポンダ カードの後続トレース ID 設定

パラメータ	内容	オプション
Port	ポート番号を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • 1 • 2
Level	レベルを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • Section • Path
Trace Mode	トレース モードを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • Off/None • Auto • Manual
Transmit	現在の伝送文字列の表示、および新規の伝送文字列の設定	トレース文字列サイズの文字列（後続トレース ID の長さは 64 バイト）
Expected	現在の予測文字列の表示、および新規の予測文字列の設定	トレース文字列サイズの文字列
Received	(表示専用) 現在の受信文字列を表示します。Refresh をクリックして表示を手動でリフレッシュするか、Auto-refresh every 5 sec チェックボックスをオンにしてこのパネルが常に更新されるようにできます。	トレース文字列サイズの文字列

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

NTP-G97 MXP_2.5G_10G カードおよび MXP_2.5G_10E カードの回線設定および PM パラメータ スレッシュホールドの変更

目的	この手順では、MXP_2.5G_10G および MXP_2.5G_10E のマックスポンダカードの、回線およびスレッシュホールドの設定を変更します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	NTP-G32 トランスポンダカードおよびマックスポンダカードの取り付け (p.3-46) DLP-G63 SFP または XFP の取り付け (p.3-50) DLP-G277 マルチレート PPM のプロビジョニング (p.5-4) (必要に応じて)
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 マックスポンダカードの設定を変更するノードで、「DLP-G46 CTC へのログイン」(p.2-30)の作業を行います。すでにログインしている場合は、ステップ 2 に進みます。

ステップ 2 必要に応じて、「NTP-G103 データベースのバックアップ」(p.13-3)を実行して既存の送信設定を保存します。

ステップ 3 必要に応じて次の作業を行います。

- DLP-G222 MXP_2.5G_10G カードおよび MXP_2.5G_10E カードの設定の変更 (p.5-26)
- DLP-G223 MXP_2.5G_10G カードおよび MXP_2.5G_10E カードの回線設定の変更 (p.5-27)
- DLP-G224 MXP_2.5G_10G カードおよび MXP_2.5G_10E カードのセクション トレースの設定の変更 (p.5-30)
- DLP-G225 MXP_2.5G_10G カードおよび MXP_2.5G_10E カードのトランクの設定の変更 (p.5-31)
- DLP-G226 MXP_2.5G_10G カードおよび MXP_2.5G_10E カードの回線スレッシュホールド設定の変更 (p.5-32)
- DLP-G303 MXP_2.5G_10G および MXP_2.5G_10E のトランク ポート アラームと TCA スレッシュホールドのプロビジョニング (p.5-34)
- DLP-G304 MXP_2.5G_10G および MXP_2.5G_10E のクライアント ポート アラームと TCA スレッシュホールドのプロビジョニング (p.5-35)
- DLP-G228 MXP_2.5G_10G カードおよび MXP_2.5G_10E カードの回線 OTN の設定の変更 (p.5-36)

ステップ 4 必要に応じて「NTP-G103 データベースのバックアップ」(p.13-3)に記載の作業を行います。

終了：この手順は、これで完了です。

DLP-G222 MXP_2.5G_10G カードおよび MXP_2.5G_10E カードの設定の変更


目的	この作業では、MXP_2.5G_10G または MXP_2.5G_10E のマックスポンダカードのカード設定を変更します。ペイロードタイプ、終端モード、および波長などの設定変更が含まれます。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

- ステップ 1** ノード ビューで、カード設定の変更を行う MXP_2.5G_10G カードまたは MXP_2.5G_10E カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > Card** タブをクリックします。
- ステップ 3** [表 5-12](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。

表 5-12 MXP_2.5G_10G または MXP_2.5G_10E のマックスポンダ カードの設定

パラメータ	内容	オプション
Termination Mode	<p>動作モードを設定します。カードに適用できないオプションは表示されません。</p> <p>MXP_2.5G_10G カードは SONET/SDH 多重化に基づいています。このカードは、着信する OC-48/STM-16 信号の B1 バイト（他のバイトも同様に）を終端し、再構築します。B2 バイトは変更されません。</p> <p>MXP_2.5G_10E カードは、OTN/G.709 多重化方式に基づいて、Transparent モードで完全に透過的になります。B1 バイトや他のバイトを終端させることはありません。</p> <p>このカードは、まず OC-48/STM-16 バイトを ODU1 にカプセル化してから、OTU2 に多重化します。</p> <p>詳細は、「16.12 終端モード」(p.16-118) を参照してください。</p>	<p>ANSI プラットフォームの場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> • Transparent • Section • Line <p>ETSI プラットフォームの場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> • Transparent • Multiplex Section (MXP_2.5G_10G) • Regeneration Section (MXP_2.5g_10E)

表 5-12 MXP_2.5G_10G または MXP_2.5G_10E のマックスポンダ カードの設定 (続き)

パラメータ	内容	オプション
Wavelength	DWDM 側の光トランスミッタの波長を設定します。波長を調整可能な最初の波長に設定したり、その他の波長 (ITU 準拠の 100 GHz 間隔) に設定したりできます。	<ul style="list-style-type: none"> 調整可能な最初の波長 その他の波長 (ITU の 100 GHz グリッド仕様) サポートされている波長はホワイトで表示され、アスタリスク (**) のマークが付けられます。サポートされていない波長はグレーで表示されます。  <p>(注) 使用できる 4 つの波長はウィンドウの Card Parameters セクションに表示されます。また、Maintenance > Info サブタブをクリックすることでも表示できます。</p>
AIS/Squelch	(MXP_2.5G_10E のみ) 透過的な終端モードの設定を行います。	<ul style="list-style-type: none"> Ais Squelch
Card Parameters	カードの設定を表示します。	情報のみ

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G223 MXP_2.5G_10G カードおよび MXP_2.5G_10E カードの回線設定の変更

目的	この作業では、MXP_2.5G_10G または MXP_2.5G_10E のマックスポンダカードの回線設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 回線設定の変更を行う MXP_2.5G_10G カードまたは MXP_2.5G_10E カードをダブルクリックします。

ステップ 2 Provisioning > Line > SONET [ANSI]、または SDH [ETSI] タブをクリックします。



(注) SONET タブは、PPM を作成済みのカードだけに表示されます。

ステップ 3 [表 5-13](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。

表 5-13 MXP_2.5G_10G または MXP_2.5G_10E のマックスポンダカードの回線設定

パラメータ	内容	オプション
Port #	(表示専用) ポート番号。ポート 1～4 はクライアントポート (OC-48/STM-16)、ポート 5 は波長サービスを提供する DWDM トランク (OC-192/STM-64) です。	<ul style="list-style-type: none"> • 1 • 2 • 3 • 4 • 5
Port Name	指定したポートに論理名を割り当てます。	<p>ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトはブランクです。</p> <p>「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」(p.7-10) を参照してください。</p>
Admin State	ポートのサービス状態を設定します (ネットワークの状態によっては変更できない場合もあります)。管理状態の詳細については、付録 C 「DWDM カードの管理状態とサービス状態」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> • IS (ANSI) または Unlocked (ETSI) • IS,AINS (ANSI) または Unlocked,automaticInService (ETSI) • OOS,DSBLD (ANSI) または Locked,disabled (ETSI) • OOS,MT (ANSI) または Locked,maintenance (ETSI)
Service State	自律的に生成された状態を判別します (この状態が、ポートの全般的な状態となります)。Service State の表示形式は、Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State です。サービス状態の詳細については、付録 C 「DWDM カードの管理状態とサービス状態」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> • IS-NR (ANSI) または Unlocked-enabled (ETSI) • OOS-AU,AINS (ANSI) または Unlocked-disabled, automaticInService (ETSI) • OOS-MA,DSBLD (ANSI) または Locked-enabled,disabled (ETSI) • OOS-MA,MT (ANSI) または Locked-enabled,maintenance (ETSI)
ALS Mode	自動レーザー遮断機能モードを設定します。DWDM トランスミッタは、ITU-T G.644 (06/99) に従って ALS をサポートします。ALS は、ディセーブルにするか、3 通りのモード オプションに設定できます。	<ul style="list-style-type: none"> • Disable (デフォルト) : ALS はオフです。トラフィックの停止 (LOS) が発生しても、レーザーが自動的に遮断されることはありません。 • Auto Restart : ALS はオンです。トラフィックの停止 (LOS) が発生すると、レーザーは自動的に遮断されます。停止の原因となった状態が解消されると、レーザーは自動的に再起動されます。 • Manual Restart : ALS はオンです。トラフィックの停止 (LOS) が発生すると、レーザーは自動的に遮断されます。ただし、停止の発生状態の解消後、レーザーを手動で再起動する必要があります。 • Manual Restart for Test : テスト用に手動でレーザーを再起動させます。
SF BER	信号損失ビット エラー レートを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • 1E-3 • 1E-4 • 1E-5

表 5-13 MXP_2.5G_10G または MXP_2.5G_10E のマックスポンダカードの回線設定 (続き)

パラメータ	内容	オプション
SD BER	信号劣化ビット エラー レートを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • 1E-5 • 1E-6 • 1E-7 • 1E-8 • 1E-9
AINS Soak	オート イン サービスのソーク期間を設定します。時間をダブルクリックし、上下の矢印を使用して、設定を変更します。	<ul style="list-style-type: none"> • hh:mm 形式で表された有効な入力信号の存続期間。この期間を経過した後、カードは自動的にイン サービス (IS) に設定されます。 • 0 ~ 48 時間 (15 分刻み)。
Type	光転送タイプ	<ul style="list-style-type: none"> • SONET • SDH
ProvidesSync	ProvidesSync カード パラメータを設定します。オンにすると、カードはネットワーク要素のタイミング基準としてプロビジョニングされます (このパラメータは MXP_2.5G_10E トランク ポートには表示されません)。	オンまたはオフ
Enable Sync Msg	同期ステータス メッセージ (S1 バイト) をイネーブルにし、ノードで最適なタイミング ソースを選択できるようにします (このパラメータは MXP_2.5G_10E トランク ポートには表示されません)。	<ul style="list-style-type: none"> • Yes • No
Send DoNotUse	オンにすると、S1 バイトで DUS (do not use) メッセージが送信されます。 (このパラメータは MXP_2.5G_10E トランク ポートには表示されません)。	<ul style="list-style-type: none"> • Yes • No
Reach	クライアント ポートの光の到達距離を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • Autoprovision (デフォルト) • I1 • S1 • S2 • L1 • L2 • L3
Wavelength	クライアント ポートの波長を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • 調整可能な最初の波長 • その他の波長 : 1310 nm、 1550 nm ITU 準拠の 100 GHz 間隔 CWDM 間隔 • サポートされている波長はアスタリスク (**) のマークが付けられます。

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G224 MXP_2.5G_10G カードおよび MXP_2.5G_10E カードのセクション トレースの設定の変更

目的	この作業では、MXP_2.5G_10G および MXP_2.5G_10E のマックスポンダカードのセクション トレースの設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



(注) Section Trace タブは、PPM を作成済みのカードだけに表示されます。

ステップ 1 ノードビューで、セクション トレースの設定を変更する MXP_2.5G_10G カードまたは MXP_2.5G_10E カードをダブルクリックします。

ステップ 2 Provisioning > Line > Section Trace タブをクリックします。

ステップ 3 [表 5-14](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。

表 5-14 TXP_MR_10G と MXP_MR_10E カードのセクション トレース設定

パラメータ	内容	オプション
Port	ポート番号を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • 1 • 2 • 3 • 4
Trace Mode	トレース モードを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • Off/None • Manual
Section Trace String Size	トレースの文字列サイズを設定します。どちらかのオプション ボタンを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> • 1 バイト • 16 バイト
Transmit	現在の伝送文字列の表示、および新規の伝送文字列の設定。Hex Mode または ASCII Mode を選択して、文字列入力タイプを変更できます。	トレース文字列サイズの文字列
Expected	現在の予測文字列の表示、および新規の予測文字列の設定。Hex Mode または ASCII Mode を選択して、文字列入力タイプを変更できます。	トレース文字列サイズの文字列
Received	(表示専用) 現在の受信文字列を表示します。Refresh をクリックして表示を手動でリフレッシュするか、Auto-refresh every 5 sec チェックボックスをオンにしてこのパネルが常に更新されるようにできます。	トレース文字列サイズの文字列

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G225 MXP_2.5G_10G カードおよび MXP_2.5G_10E カードのトランクの設定の変更

目的	この作業では、MXP_2.5G_10G および MXP_2.5G_10E のマックスポンダカードのトランクの設定をプロビジョニングします。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノードビューで、セクショントレースの設定を変更する MXP_2.5G_10G カードまたは MXP_2.5G_10E カードをダブルクリックします。

ステップ 2 Provisioning > Line > Trunk タブをクリックします。

ステップ 3 [表 5-15](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。

表 5-15 MXP_2.5G_10G および MXP_2.5G_10E のマックスポンダカードのトランク設定

パラメータ	内容	オプション
Port #	(表示専用) ポート番号を表示します。ポート 1 ~ 4 はクライアントポート (OC-48/STM-16)、ポート 5 は波長サービスを提供する DWDM トランク (OC-192/STM-64) です。	5
Port Name	指定したポートに論理名を割り当てます。	ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトはブランクです。 「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」 (p.7-10) を参照してください。
Admin State	ポートのサービス状態を設定します (ネットワークの状態によっては変更できない場合もあります)。管理状態の詳細については、 付録 C 「DWDM カードの管理状態とサービス状態」 を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> • IS (ANSI) または Unlocked (ETSI) • IS,AINS (ANSI) または Unlocked,automaticInService (ETSI) • OOS,DSBLD (ANSI) または Locked,disabled (ETSI) • OOS,MT (ANSI) または Locked,maintenance (ETSI)

表 5-15 MXP_2.5G_10G および MXP_2.5G_10E のマックスポンダ カードのトランク設定 (続き)

パラメータ	内容	オプション
Service State	自律的に生成された状態を判別します (この状態が、ポートの全般的な状態となります)。Service State の表示形式は、Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State です。サービス状態の詳細については、付録 C 「DWDM カードの管理状態とサービス状態」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> IS-NR (ANSI) または Unlocked-enabled (ETSI) OOS-AU,AINS (ANSI) または Unlocked-disabled, automaticInService (ETSI) OOS-MA,DSBLD (ANSI) または Locked-enabled,disabled (ETSI) OOS-MA,MT (ANSI) または Locked-enabled,maintenance (ETSI)
ALS Mode	自動レーザー遮断機能モードを設定します。DWDM トランスミッタは、ITU-T G.644 (06/99) に従って ALS をサポートします。ALS は、ディセーブルにするか、3 通りのモード オプションに設定できます。	<ul style="list-style-type: none"> Disable (デフォルト) : ALS はオフです。トラフィックの停止 (LOS) が発生しても、レーザーが自動的に遮断されることはありません。 Auto Restart : ALS はオンです。トラフィックの停止 (LOS) が発生すると、レーザーは自動的に遮断されます。停止の原因となった状態が解消されると、レーザーは自動的に再起動されます。 Manual Restart : ALS はオンです。トラフィックの停止 (LOS) が発生すると、レーザーは自動的に遮断されます。ただし、停止の発生状態の解消後、レーザーを手動で再起動する必要があります。 Manual Restart for Test : テスト用に手動でレーザーを再起動させます。

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G226 MXP_2.5G_10G カードおよび MXP_2.5G_10E カードの回線スレッシュホールド設定の変更

目的	この作業では、MXP_2.5G_10G または MXP_2.5G_10E のマックスポンダカードの、回線スレッシュホールドの設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノード ビューで、回線スレッシュホールドの設定を変更する MXP_2.5G_10G カードまたは MXP_2.5G_10E カードをダブルクリックします。

ステップ 2 Provisioning > Line Thresholds タブをクリックします。

ステップ3 表 5-16 に示す設定を、必要に応じて変更します。



(注)

表 5-16 に示すパラメータ タブや選択肢は、必ずしも MXP_2.5G_10G カードと MXP_2.5G_10E カードの両方に当てはまるとは限りません。適用できないタブや選択肢は CTC に表示されません。

表 5-16 MXP_2.5G_10G または MXP_2.5G_10E のマックスポンダカードの回線スレッシュホールド設定

パラメータ	内容	オプション
Port	(表示専用) ポート番号	<ul style="list-style-type: none"> • 1 • 2 • 3 • 4 • 5
CV	符号化違反	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは回線 (遠端のみ)、セクション、パスのいずれかに設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
ES	エラー秒数	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは回線 (遠端のみ)、セクション、パスのいずれかに設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
SES	重大エラー秒数	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは回線 (遠端のみ)、セクション、パスのいずれかに設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
SEFS	(セクションのみ) 重大エラー フレーム秒数	数値。15 分または 1 日間隔で、セクションのみに設定できます (遠端のみ)。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
FC	(回線のみ) 障害カウント	数値。15 分または 1 日間隔で、回線のみに設定できます (遠端または遠端)。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
UAS	(回線のみ) 使用不可秒数	数値。15 分または 1 日間隔で、回線のみに設定できます (遠端または遠端)。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。

ステップ4 **Apply** をクリックします。

ステップ5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G303 MXP_2.5G_10G および MXP_2.5G_10E のトランクポートアラームと TCA スレッシュホールドのプロビジョニング

目的	この作業では、MXP_2.5G_10G および MXP_2.5G_10E トランクポートアラームと TCA スレッシュホールドを変更します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティレベル	プロビジョニング以上のレベル

- ステップ 1** ノード ビューで、トランクポートアラームと TCA 設定を変更する MXP_2.5G_10G または MXP_2.5G_10E カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > Optical Thresholds** タブをクリックします。
- ステップ 3** **15 Min** または **1 Day** のパフォーマンス モニタリング間隔オプション ボタンを選択してから、**Refresh** をクリックします。
- ステップ 4** 表 5-17 を参照しながら、RX Power High、RX Power Low、TX Power High、TX Power Low のトランクポート TCA スレッシュホールドをプロビジョニングします。
- ステップ 5** **Apply** をクリックします。

表 5-17 MXP_2.5G_10G および MXP_2.5G_10E のトランクポートアラームと TCA スレッシュホールド

カード	Alarm RX Power Low	Alarm RX Power High	TCA RX Power Low	TCA RX Power High	Alarm TX Power Low	Alarm TX Power High	TCA TX Power Low	TCA TX Power High
MXP_2.5G_10G	-24 dBm	-8 dBm	-22 dBm	-8 dBm	2 dBm	4 dBm	-1 dBm	7 dBm
MXP_2.5G_10E	-20 dBm	-8 dBm	-18 dBm	-9 dBm	3 dBm	7 dBm	0 dBm	9 dBm

- ステップ 6** Types の下で、**Alarm** オプション ボタンをクリックし、次に **Refresh** をクリックします。
- ステップ 7** 表 5-17 を参照しながら、RX Power High、RX Power Low、TX Power High、TX Power Low のトランクポートアラーム スレッシュホールドをプロビジョニングします。
- ステップ 8** **Apply** をクリックします。
- ステップ 9** 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G304 MXP_2.5G_10G および MXP_2.5G_10E のクライアントポートアラームと TCA スレッシュホールドのプロビジョニング

目的	この作業では、MXP_2.5G_10G および MXP_2.5G_10E カードのクライアントポートアラームと TCA スレッシュホールドをプロビジョニングします。
ツール/機器	なし
事前準備手順	DLP-G278 光回線レートのプロビジョニング (p.5-5) DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須/適宜	必須
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティレベル	プロビジョニング以上のレベル

- ステップ 1** ノードビューで、クライアントポートアラームと TCA 設定を変更する MXP_2.5G_10G または MXP_2.5G_10E カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > Optics Thresholds** タブをクリックします。TCA スレッシュホールドはデフォルトで表示されます。
- ステップ 3** 表 5-18 を参照しながら、反対側にあるクライアントインターフェイスに基づいた RX Power High、RX Power Low、TX Power High、TX Power Low の TCA スレッシュホールドをプロビジョニングします。クライアント SFP および XFP のインターフェイス (PPM) に関する詳細は、『Cisco ONS 15454 Reference Manual』の「Hardware Specifications」の章を参照してください。
- ステップ 4** **Apply** をクリックします。

表 5-18 クライアントインターフェイスアラームおよび TCA スレッシュホールド : MXP_2.5G_10G および MXP_2.5G_10E カード

ポートタイプ (CTC)	PPM (SFP)	Alarm RX Power Low	Alarm RX Power High	Alarm TX Power Low	Alarm TX Power High	TCA RX Power Low	TCA RX Power High	TCA TX Power Low	TCA TX Power High
OC-48	ONS-SE-2G-S1	-21	0	-13	0	-18	-3	-16	3
	15454-SFP-OC48-IR	-21	3	-8	3	-18	0	-11	6
STM-16	ONS-SE-2G-S1	-21	0	-13	0	-18	-3	-16	3
	15454E-SFP-L.16.1	-21	3	-8	3	-18	0	-11	6

- ステップ 5** ステップ 3 および 4 を繰り返し、さらにクライアントポートをプロビジョニングします。
- ステップ 6** Types の下で、**Alarm** オプションボタンをクリックし、次に **Refresh** をクリックします。
- ステップ 7** 表 5-18 を参照しながら、プロビジョニングするクライアントインターフェイスに基づいた RX Power High、RX Power Low、TX Power High、TX Power Low のアラーム スレッシュホールドをプロビジョニングします。
- ステップ 8** **Apply** をクリックします。

ステップ 9 ステップ 7 および 8 を繰り返し、さらにクライアント ポート をプロビジョニング します。それ以外は、[ステップ 10](#) に進みます。

ステップ 10 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G228 MXP_2.5G_10G カードおよび MXP_2.5G_10E カードの回線 OTN の設定の変更

目的	この作業では、MXP_2.5G_10G または MXP_2.5G_10E のマックスポンダカードの、回線 OTN 設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノード ビューで、回線 OTN の設定を変更する MXP_2.5G_10G カードまたは MXP_2.5G_10E カードをダブルクリック します。

ステップ 2 **Provisioning > OTN** サブタブの 1 つ (OTN Lines、OTN G.709 Thresholds、FEC Thresholds、Trail Trace Identifier) をクリック します。

ステップ 3 [表 5-19](#) ~ [5-22](#) に示す設定を、必要に応じて変更 します。

[表 5-19](#) に、Provisioning > OTN > OTN Lines タブをクリックした場合の設定を示 します。



(注) [表 5-19](#) に示すパラメータ タブや値は、必ずしも MXP_2.5G_10G カードと MXP_2.5G_10E カードの両方に当てはまるとは限りません。適用できないタブや値は表示され ません。

表 5-19 MXP_2.5G_10G または MXP_2.5G_10E のマックスポンダ カードの回線 OTN 設定

パラメータ	内容	オプション
Port #	(表示専用) ポート番号を表示 します。	5
G.709 OTN	ITU-T G.709 に従って OTN 回線 を設定 します。	<ul style="list-style-type: none"> • オン • オフ
FEC	OTN 回線の FEC モードを設定 します。FEC モードはディセーブルまたはイネーブルに できます。拡張 FEC モードをイネーブルに することもできます (範囲の拡大とビットエラ ーレートの低減のため)。E-FEC は、 MXP_2.5G_10E カードにだけ適用 できます。	<ul style="list-style-type: none"> • ディセーブル (FEC OFF) • 標準 (FEC ON) • 拡張 (E-FEC ON)
SF BER	信号損失ビットエラー レートを設定 します。	<ul style="list-style-type: none"> • 1E-5

表 5-19 MXP_2.5G_10G または MXP_2.5G_10E のマックスポンダカードの回線 OTN 設定 (続き)

パラメータ	内容	オプション
SD BER	信号劣化ビットエラー レートを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • 1E-5 • 1E-6 • 1E-7 • 1E-8 • 1E-9
Asynch/ Synch Mapping	MXP_2.5G_10E は、ITU-T G.709 に従って、標準的な ODU 多重化を実行できます。このカードは、これを使用して 4 つの OC-48 クライアント信号を集約します。	<ul style="list-style-type: none"> • ODU Multiplex

表 5-20 に、Provisioning > OTN > OTN G.709 Thresholds タブをクリックした場合の設定を示します。

表 5-20 MXP_2.5G_10G または MXP_2.5G_10E のマックスポンダカードの G.709 スレッシュホールド設定

パラメータ	内容	オプション
Port	(表示専用) ポート番号	5
ES	エラー秒数	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは SM (OTUk) または PM (ODUk) に設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
SES	重大エラー秒数。2 種類のスレッシュホールドをアサートできます。SM (OTUk) オプション ボタンを選択すると、OTUk を使用して、FEC とオーバーヘッド管理とパフォーマンス モニタリングを選択します。PM オプション ボタンを選択すると、ODUk を使用して、パスのパフォーマンス モニタリングを選択します。	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは SM (OTUk) または PM (ODUk) に設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
UAS	使用不可秒数	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは SM (OTUk) または PM (ODUk) に設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
BBE	バックグラウンドブロック エラー	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは SM (OTUk) または PM (ODUk) に設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
FC	障害カウンタ	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは SM (OTUk) または PM (ODUk) に設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。

表 5-21 に、Provisioning > OTN > FEC Thresholds タブをクリックした場合の設定を示します。

表 5-21 MXP_2.5G_10G または MXP_2.5G_10E のマックスポンダカードの FEC スレッシュホールド設定

パラメータ	内容	オプション
Port	(表示専用) ポート番号を表示します。	5
Bit Errors Corrected	選択した間隔の間に訂正されたビットエラーの数を表示します。間隔は 15 分または 1 日に設定できます。	数値
Uncorrectable Words	選択した間隔の間に訂正不可能だったワード数を表示します。間隔は 15 分または 1 日に設定できます。	数値

表 5-22 に、Provisioning > OTN > Trail Trace Identifier タブをクリックした場合の設定を示します。

表 5-22 MXP_2.5G_10G または MXP_2.5G_10E のマックスポンダカードの後続トレース ID 設定

パラメータ	内容	オプション
Port	ポート番号を設定します。後続トレース ID は、G.709 フレームを扱うトランクインターフェイスにだけ適用可能です。	<ul style="list-style-type: none"> 5
Level	レベルを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> Section Path
Trace Mode	トレースモードを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> Off/None Manual
Transmit	現在の伝送文字列の表示、および新規の伝送文字列の設定	トレース文字列サイズの文字列 (後続トレース ID の長さは 64 バイト)
Expected	現在の予測文字列の表示、および新規の予測文字列の設定	トレース文字列サイズの文字列
Received	(表示専用) 現在の受信文字列を表示します。Refresh をクリックして表示を手動でリフレッシュするか、Auto-refresh every 5 sec ボックスをオンにしてこのパネルが常に更新されるようにできます。	トレース文字列サイズの文字列

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

NTP-G98 TXP_MR_2.5G カードおよび TXPP_MR_2.5G カードの回線設定および PM パラメータ スレッシュホールドの変更

目的	この手順では、TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランスポンダカードの、回線およびスレッシュホールドの設定を変更します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	NTP-G32 トランスポンダカードおよびマックスポンダカードの取り付け (p.3-46) DLP-G63 SFP または XFP の取り付け (p.3-50) DLP-G277 マルチレート PPM のプロビジョニング (p.5-4) (必要に応じて)
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 トランスポンダカードの設定を変更するノードで、「DLP-G46 CTC へのログイン」(p.2-30)の作業を行います。すでにログインしている場合は、ステップ 2 に進みます。

ステップ 2 必要に応じて、「NTP-G103 データベースのバックアップ」(p.13-3)を実行して既存の送信設定を保存します。

ステップ 3 必要に応じて次の作業を行います。

- DLP-G229 TXP_MR_2.5G カードおよび TXPP_MR_2.5G カードのカード設定の変更 (p.5-40)
- DLP-G230 TXP_MR_2.5G カードおよび TXPP_MR_2.5G カードの回線設定の変更 (p.5-41)
- DLP-G231 TXP_MR_2.5G カードおよび TXPP_MR_2.5G カードのセクション トレースの設定の変更 (p.5-43)
- DLP-G232 TXP_MR_2.5G カードおよび TXPP_MR_2.5G カードの回線スレッシュホールド設定の変更 (p.5-44)
- DLP-G305 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランク ポート アラームと TCA スレッシュホールドのプロビジョニング (p.5-46)
- DLP-G306 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G カードのクライアント ポート アラームと TCA スレッシュホールドのプロビジョニング (p.5-47)
- DLP-G234 TXP_MR_2.5G カードおよび TXPP_MR_2.5G カードの OTN 設定の変更 (p.5-49)

ステップ 4 必要に応じて「NTP-G103 データベースのバックアップ」(p.13-3)に記載の作業を行います。

終了：この手順は、これで完了です。

DLP-G229 TXP_MR_2.5G カードおよび TXPP_MR_2.5G カードのカード設定の変更

目的	この作業では、TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランスポンダカードのカード設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

- ステップ 1** ノード ビューで、カード設定を変更する TXP_MR_2.5G カードまたは TXPP_MR_2.5G カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** Provisioning > Card タブをクリックします。
- ステップ 3** [表 5-23](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。

表 5-23 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランスポンダ カードの設定

パラメータ	内容	オプション
Termination Mode	動作モードを設定します (サポート対象が SONET/SDH ペイロードだけのオプション)。詳細は、「 16.12 終端モード 」 (p.16-118) を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> Transparent Section Line
Wavelength	DWDM 側の光トランスミッタの波長を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 調整可能な最初の波長 その他の波長 (ITU 準拠の 100 GHz 間隔) サポートされている波長はホワイトで表示され、アスタリスク (**) のマークが付けられます。サポートされていない波長はグレーで表示されます。 <p> (注) 使用できる 4 つの波長はウィンドウの Card Parameters セクションに表示されます。また、Maintenance > Info サブタブをクリックすることでも表示できます。</p>

表 5-23 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランスポンダカードの設定 (続き)

パラメータ	内容	オプション
Regeneration Peer Slot	再生ピア スロットを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 1 • 2 • 3 • 4 • 5 • 6 • 12 • 13 • 14 • 15 • 16 • 17
Regeneration Group Name	再生ピア グループ名を設定します。	ユーザ定義

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G230 TXP_MR_2.5G カードおよび TXPP_MR_2.5G カードの回線設定の変更

目的	この作業では、TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランスポンダカードの回線設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノードビューで、回線設定を変更する TXP_MR_2.5G または TXPP_MR_2.5G カードをダブルクリックします。

ステップ 2 Provisioning > Line タブをクリックし、さらに PPM タブ (OC12、OC48 など) のどれかをクリックします。タブとパラメータの選択肢は、PPM プロビジョニングによって異なります。

ステップ 3 [表 5-24](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。

表 5-24 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランスポンダカードの回線設定

パラメータ	内容	オプション
Port #	(表示専用) ポート番号を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • 1 • 2 • 3 (TXPP_MR_2.5G カードのみ)
Port Name	表示されている各ポートに論理名を割り当てるには、このフィールドに入力します。	<p>ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトはブランクです。</p> <p>「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」(p.7-10)を参照してください。</p>
Admin State	ポートのサービス状態を設定します (ネットワークの状態によっては変更できない場合もあります)。管理状態の詳細については、付録 C 「DWDM カードの管理状態とサービス状態」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> • IS (ANSI) または Unlocked (ETSI) • IS,AINS (ANSI) または Unlocked,automaticInService (ETSI) • OOS,DSBLD (ANSI) または Locked,disabled (ETSI) • OOS,MT (ANSI) または Locked,maintenance (ETSI)
Service State	自律的に生成された状態を判別します (この状態が、ポートの全般的な状態となります)。Service State の表示形式は、Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State です。サービス状態の詳細については、付録 C 「DWDM カードの管理状態とサービス状態」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> • IS-NR (ANSI) または Unlocked-enabled (ETSI) • OOS-AU,AINS (ANSI) または Unlocked-disabled, automaticInService (ETSI) • OOS-MA,DSBLD (ANSI) または Locked-enabled,disabled (ETSI) • OOS-MA,MT (ANSI) または Locked-enabled,maintenance (ETSI)
ALS Mode	自動レーザー遮断機能を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • Disable (デフォルト) : • Auto Restart • Manual Restart • Manual Restart for Test
SF BER	(OC-N と STM-N ペイロードのみ) 信号損失ビットエラー レートを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • 1E-3 • 1E-4 • 1E-5
SD BER	(OC-N と STM-N ペイロードのみ) 信号劣化ビットエラー レートを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • 1E-5 • 1E-6 • 1E-7 • 1E-8 • 1E-9
AINS Soak	(OC-N と STM-N ペイロードのみ) オート インサービスのソーク期間を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • hh:mm 形式で表された有効な入力信号の存続期間。この期間を経過したあと、カードは自動的にインサービス (IS) に設定されます。 • 0 ~ 48 時間 (15 分刻み)
Type	光転送タイプ	<ul style="list-style-type: none"> • SONET • SDH

表 5-24 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランスポンダ カードの回線設定 (続き)

パラメータ	内容	オプション
Reach	クライアント ポートの光の到達距離を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> Autoprovision (デフォルト) I1 S1 S2 L1 L2 L3
Wavelength	クライアント ポートの波長を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> 調整可能な最初の波長 その他の波長 : 1310 nm、 1550 nm ITU 準拠の 100 GHz 間隔 CWDM 間隔 サポートされている波長はアスタリスク (**) のマークが付けられます。

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G231 TXP_MR_2.5G カードおよび TXPP_MR_2.5G カードのセクション トレース の設定の変更

目的	この作業では、TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランスポンダ カードのセクション トレースの設定を変更します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノード ビューで、セクション トレースの設定を変更する TXP_MR_2.5G または TXPP_MR_2.5G カードをダブルクリックします。

ステップ 2 Provisioning > Line > Section Trace タブをクリックします。

ステップ 3 [表 5-25](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。

表 5-25 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランスポンダカードのセクション トレース設定

パラメータ	内容	オプション
Port	(表示専用) ポート番号	<ul style="list-style-type: none"> 1 2 3 (TXPP_MR_2.5G のみ)
Trace Mode	トレース モードを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> Off/None Manual
Section Trace String Size	トレースの文字列サイズを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 1 バイト 16 バイト
Transmit	現在の伝送文字列の表示、および新規の伝送文字列の設定	トレース文字列サイズの文字列
Expected	現在の予測文字列の表示、および新規の予測文字列の設定	トレース文字列サイズの文字列
Received	(表示専用) 現在の受信文字列を表示します。	トレース文字列サイズの文字列

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G232 TXP_MR_2.5G カードおよび TXPP_MR_2.5G カードの回線スレッシュホールド設定の変更

目的	この作業では、TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランスポンダカードの回線スレッシュホールドの設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノードビューで、回線スレッシュホールドの設定を変更する TXP_MR_2.5G または TXPP_MR_2.5G カードをダブルクリックします。

ステップ 2 Provisioning > Line Thresholds タブをクリックします。

ステップ 3 次のとおり設定を変更します。

- OC-3/STM-1、OC-12/STM-4、および OC-48/STM16 のペイロードの場合は、[表 5-26](#) を参照します。
- 1G イーサネット、1G および 2G ファイバチャネル/FICON のペイロードの場合は、[表 5-27](#) を参照します。

表 5-26 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G トランスポンダカードの回線スレッシュホールド設定 — OC-3/STM-1、OC-12/STM-4、および OC-48/STM-16 ペイロードの場合

パラメータ	内容	オプション
Port	(表示専用) ポート番号	<ul style="list-style-type: none"> • 1 • 2 • 3 (TXPP_MR_2.5G カードのみ)
CV	符号化違反	数値。近端または遠端、15分または1日間隔、あるいは回線(遠端のみ)、セクション、パスのいずれかに設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
ES	エラー秒数	数値。近端または遠端、15分または1日間隔、あるいは回線(遠端のみ)、セクション、パスのいずれかに設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
SES	重大エラー秒数	数値。近端または遠端、15分または1日間隔、あるいは回線(遠端のみ)、セクション、パスのいずれかに設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
SEFS	(セクションのみ) 重大エラーフレーム秒数	数値。15分または1日間隔で、セクションのみに設定できます(遠端のみ)。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
FC	(回線のみ) 障害カウント	数値。近端または遠端、15分または1日間隔、回線のみのもので設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
UAS	(回線のみ) 使用不可秒数	数値。15分または1日間隔で、回線のみにも設定できます(遠端または遠端)。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。

表 5-27 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G トランスポンダカードの回線スレッシュホールド設定 — 1G イーサネット、1G、Fiber Channel/FICON ペイロードの場合

パラメータ	内容	オプション
Port	(表示専用) ポート番号	<ul style="list-style-type: none"> • 1 • 2 • 3 (TXPP_MR_2.5G カードのみ)
Valid Packets	(回線のみ) 有効パケット数	数値。15分または1日間隔で、回線のみにも設定できます(遠端または遠端)。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
Invalid Packets	(回線のみ) 無効パケット数	数値。15分または1日間隔で、回線のみにも設定できます(近端または遠端)。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
Code Group Violations	(回線のみ) コードグループ違反の回数	数値。15分または1日間隔で、回線のみにも設定できます(近端または遠端)。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
Idle Ordered Sets	(回線のみ) アイドル順序セットの数	数値。15分または1日間隔で、回線のみにも設定できます(近端または遠端)。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。

表 5-27 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G トランスポンダ カードの回線スレッシュホールド設定 — 1G イーサネット、1G、Fiber Channel/FICON ペイロードの場合 (続き)

パラメータ	内容	オプション
Non Idle Ordered Sets	(回線のみ) 非アイドル順序セットの数	数値。15 分または 1 日間隔で、回線のみを設定できます (近端または遠端)。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
Data Code Groups	(回線のみ) データ コード グループの数 (順序セットを除く)	数値。15 分または 1 日間隔で、回線のみを設定できます (近端または遠端)。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。

ステップ 4 **Apply** をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G305 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランク ポート アラームと TCA スレッシュホールドのプロビジョニング

目的	この作業では、TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G トランク ポート アラームと TCA スレッシュホールドを変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノード ビューで、トランク ポート アラームと TCA 設定を変更する TXP_MR_2.5G または TXPP_MR_2.5G カードをダブルクリックします。

ステップ 2 **Pluggable Port Modules** タブをクリックします。Pluggable Ports の下で、プロビジョニングする Rate を記録します。

ステップ 3 [表 16-54 \(p.16-89\)](#) でレート参照し、2R または 3R に決めます。

ステップ 4 **Provisioning > Optical Thresholds** タブをクリックします。

ステップ 5 **15 Min** または **1 Day** のパフォーマンス モニタリング間隔オプション ボタンを選択してから、**Refresh** をクリックします。

ステップ 6 [表 5-28](#) を参照しながら、RX Power High および RX Power Low のトランク ポート TCA スレッシュホールドをプロビジョニングします (レートが 2R になるか 3R になるかで異なります)。

ステップ 7 **Apply** をクリックします。

表 5-28 TXP_MR_2.5G カードおよび TXPP_MR_2.5G トランク ポート TCA スレッシュホールド

信号	TCA RX Power Low	TCA RX Power High
3R	-23 dBm	-9 dBm
2R	-24 dBm	-9 dBm

ステップ 8 Types の下で、**Alarm** オプション ボタンをクリックし、次に **Refresh** をクリックします。

ステップ 9 RX Power High の トランク ポート アラーム スレッシュホールドを -7 dBm に、RX Power Low を -26 dBm にプロビジョニングします。

ステップ 10 **Apply** をクリックします。

ステップ 11 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G306 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G カードのクライアントポートアラームと TCA スレッシュホールドのプロビジョニング

目的	この作業では、TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G カードのクライアントポートアラームと TCA スレッシュホールドをプロビジョニングします。
ツール/機器	なし
事前準備手順	DLP-G278 光回線レートのプロビジョニング (p.5-5) DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須/適宜	必須
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノード ビューで、クライアント ポート アラームと TCA 設定を変更する TXP_MR_2.5G または TXPP_MR_2.5G カードをダブルクリックします。

ステップ 2 **Provisioning > Optics Thresholds** タブをクリックします。TCA スレッシュホールドはデフォルトで表示されます。

ステップ 3 [表 5-29](#) を参照しながら、反対側にあるクライアント インターフェイスに基づいた RX Power High、RX Power Low、TX Power High、TX Power Low の TCA スレッシュホールドをプロビジョニングします。クライアント SFP および XFP のインターフェイス (PPM) に関する詳細は、『Cisco ONS 15454 Reference Manual』の「Hardware Specifications」の章を参照してください。

ステップ 4 **Apply** をクリックします。

表 5-29 クライアント インターフェイス アラームおよび TCA スレッシュホールド : TXP_MR_2.5G カードおよび TXPP_MR_2.5G カード

ポート タイプ (CTC)	PPM (SFP)	Alarm RX Power Low	Alarm RX Power High	Alarm TX Power Low	Alarm TX Power High	TCA RX Power Low	TCA RX Power High	TCA TX Power Low	TCA TX Power High
OC-3	15454-SFP3-1-IR	-26	-5	-18	-5	-23	-8	-21	-2
STM-1	15454E-SFP-L.1.1	-27	-7	-18	-5	-24	-10	-21	-2
OC-12	15454-SFP12-4-IR	-31	-4	-18	-5	-28	-7	-21	-2
STM-4	15454E-SFP-L.4.1	-31	-5	-18	-5	-28	-8	-21	-2
OC-48	ONS-SE-2G-S1	-21	0	-13	0	-18	-3	-16	3
	15454-SFP-OC48-IR	-21	3	-8	3	-18	0	-11	6
STM-16	ONS-SE-2G-S1	-21	0	-13	0	-18	-3	-16	3
	15454E-SFP-L.16.1	-21	3	-8	3	-18	0	-11	6
ONE_GE	15454-SFP-GEFC-SX	-20	3	-13	-1	-17	0	-16	3
	15454E-SFP-GEFC-S								
	15454-SFP-GE+-LX 15454E-SFP-GE+-LX	-23	0	-13	0	-20	-3	-16	3
ESCON	15454-SFP-200	-24	-11	-32	-11	-21	-14	-35	-8
	15454E-SFP-200								
DV6000	15454-SFP-OC48-IR	-31	-4	-18	-5	-28	-7	-21	-2
	15454E-SFP-L.16.1	-21	3	-8	3	-18	0	-11	6
SDI_D1_VIDEO	15454-SFP12-4-IR	-31	-4	-18	-5	-28	-7	-21	-2
	15454E-SFP-L.4.1	-31	-5	-18	-5	-28	-8	-21	-2
HDTV	15454-SFP-GE+-LX 15454E-SFP-GE+-LX	-23	0	-13	0	-20	-3	-16	3
PASS-THRU	2R MODE (指定なし)	サービスに依存							
FC1G	15454-SFP-GEFC-SX	-20	3	-13	-1	-17	0	-16	3
	15454E-SFP-GEFC-S								
FC2G	15454-SFP-GE+-LX 15454E-SFP-GE+-LX	-23	0	-13	0	-20	-3	-16	3
	15454-SFP-GE+-LX 15454E-SFP-GE+-LX	-18	3	-13	-1	-15	0	-16	3
FICON1G	15454-SFP-GEFC-SX	-20	3	-13	-1	-17	0	-16	3
	15454E-SFP-GEFC-S								
FICON2G	15454-SFP-GE+-LX 15454E-SFP-GE+-LX	-23	0	-13	0	-20	-3	-16	3
	15454-SFP-GE+-LX 15454E-SFP-GE+-LX	-20	3	-13	-1	-17	0	-16	3
ETR_CLO	15454-SFP-200	-20	3	-13	-1	-17	0	-16	3
	15454E-SFP-200								

表 5-29 クライアント インターフェイス アラームおよび TCA スレッシュホールド : TXP_MR_2.5G カードおよび TXPP_MR_2.5G カード (続き)

ポート タイプ (CTC)	PPM (SFP)	Alarm RX Power Low	Alarm RX Power High	Alarm TX Power Low	Alarm TX Power High	TCA RX Power Low	TCA RX Power High	TCA TX Power Low	TCA TX Power High
ISC compat	15454-SFP-GE+-LX 15454E-SFP-GE+-LX	-23	0	-13	0	-20	-3	-16	3
ISC peer	15454-SFP-GE+-LX 15454E-SFP-GE+-LX	-23	0	-13	0	-20	-3	-16	3

ステップ 5 Types の下で、**Alarm** オプション ボタンをクリックし、次に **Refresh** をクリックします。

ステップ 6 表5-29を参照しながら、プロビジョニングするクライアントインターフェイスに基づいた RX Power High、RX Power Low、TX Power High、TX Power Low のアラーム スレッシュホールドをプロビジョニングします。

ステップ 7 **Apply** をクリックします。

ステップ 8 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G234 TXP_MR_2.5G カードおよび TXPP_MR_2.5G カードの OTN 設定の変更

目的	この作業では、TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランスポンダカードの OTN 設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノード ビューで、OTN の設定を変更する TXP_MR_2.5G または TXPP_MR_2.5G カードをダブルクリックします。

ステップ 2 **Provisioning > OTN** サブタブの 1 つ (OTN Lines、G.709 Thresholds、FEC Thresholds、Trail Trace Identifier) をクリックします。

ステップ 3 表 5-30 ~ 5-33 に示す設定を、必要に応じて変更します。

表 5-30 に、Provisioning > OTN > OTN Lines タブをクリックした場合の設定を示します。

表 5-30 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランスポンダカードの OTN 回線設定

パラメータ	内容	オプション
Port #	(表示専用) ポート番号を表示します。	2
G.709 OTN	ITU-T G.709 に従って OTN 回線を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • オン • オフ

表 5-30 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランスポンダ カード の OTN 回線設定 (続き)

パラメータ	内容	オプション
FEC	FEC に従って OTN 回線を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> オン オフ
SF BER	信号損失ビット エラー レートを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 1E-5
SD BER	信号劣化ビット エラー レートを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 1E-5 1E-6 1E-7 1E-8 1E-9

表 5-31 に、Provisioning > OTN > G.709 Thresholds タブをクリックした場合の設定を示します。

表 5-31 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランスポンダ カード の ITU-T G.709 スレッシュホールド設定

パラメータ	内容	オプション
Port ¹	(表示専用) ポート番号	2
ES	エラー秒数	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは SM (OTUk) または PM (ODUk) に設定できません。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
SES	重大エラー秒数	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは SM (OTUk) または PM (ODUk) に設定できません。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
UAS	使用不可秒数	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは SM (OTUk) または PM (ODUk) に設定できません。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
BBE	バックグラウンドブロック エラー	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは SM (OTUk) または PM (ODUk) に設定できません。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
FC	障害カウンタ	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは SM (OTUk) または PM (ODUk) に設定できません。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。

1. ITU-T G.709 なしの 1G-FC ペイロードのレイテンシは 4 マイクロ秒で、ITU-T G.709 ありでは 40 マイクロ秒です。ITU-T G.709 なしの 2G-FC ペイロードのレイテンシは 2 マイクロ秒で、ITU-T G.709 ありでは 20 マイクロ秒です。レイテンシの影響を受けやすい FC ネットワークを計画する際は、これらの値を考慮してください。

表 5-32 に、Provisioning > OTN > FEC Threshold タブをクリックした場合の設定を示します。

表 5-32 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランスポンダカードの FEC スレッシュホールド設定

パラメータ	内容	オプション
Port	(表示専用) ポート番号	2
Bit Errors Corrected	訂正されたビット エラーの値を設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。
Uncorrectable Words	訂正不可能なワードの値を設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。

表 5-33 に、Provisioning > OTN > Trail Trace Identifier タブをクリックした場合の設定を示します。

表 5-33 TXP_MR_2.5G および TXPP_MR_2.5G のトランスポンダカードの後続トレース ID 設定

パラメータ	内容	オプション
Level	レベルを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • Section • Path
Trace Mode	トレース モードを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • Off/None • Manual
Transmit	現在の伝送文字列の表示、および新規の伝送文字列の設定	トレース文字列サイズの文字列 (後続トレース ID の長さは 64 バイト)
Expected	現在の予測文字列の表示、および新規の予測文字列の設定	トレース文字列サイズの文字列
Received	(表示専用) 現在の受信文字列を表示します。	トレース文字列サイズの文字列

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

NTP-G99 MXP_MR_2.5G カードおよび MXPP_MR_2.5G カードの回線設定および PM パラメータ スレッシュホールドの変更

目的	この手順では、MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のマックスポンダカードの回線およびスレッシュホールドの設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	NTP-G32 トランスポンダ カードおよびマックスポンダ カードの取り付け (p.3-46) DLP-G63 SFP または XFP の取り付け (p.3-50) DLP-G277 マルチレート PPM のプロビジョニング (p.5-4) (必要に応じて)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 マックスポンダ カードの設定を変更するノードで、「DLP-G46 CTC へのログイン」(p.2-30) の作業を行います。すでにログインしている場合は、ステップ 2 に進みます。

ステップ 2 必要に応じて、「NTP-G103 データベースのバックアップ」(p.13-3) を実行して既存の送信設定を保存します。

ステップ 3 必要に応じて次の作業を行います。

- DLP-G235 MXP_MR_2.5G カードおよび MXPP_MR_2.5G カードのカード設定の変更 (p.5-53)
- DLP-G236 MXP_MR_2.5G カードおよび MXPP_MR_2.5G カードの回線設定の変更 (p.5-54)
- DLP-G237 MXP_MR_2.5G カードおよび MXPP_MR_2.5G カードの距離拡張設定の変更 (p.5-56)
- DLP-G238 MXP_MR_2.5G カードおよび MXPP_MR_2.5G カードの OC-48/STM-16 設定の変更 (p.5-58)
- DLP-G239 MXP_MR_2.5G カードおよび MXPP_MR_2.5G カードのセクション トレースの設定の変更 (p.5-60)
- DLP-G240 MXP_MR_2.5G カードおよび MXPP_MR_2.5G カードの回線スレッシュホールド設定の変更 (p.5-61)
- DLP-G307 MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のトランク ポート アラームと TCA スレッシュホールドのプロビジョニング (p.5-62)
- DLP-G308 MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のクライアント ポート アラームと TCA スレッシュホールドのプロビジョニング (p.5-63)



(注) アラーム プロファイルの作成やアラームの抑制など、Alarm Profiles タブの使用については、第 8 章「アラームの管理」を参照してください。

ステップ 4 必要に応じて「NTP-G103 データベースのバックアップ」(p.13-3) に記載の作業を行います。

終了：この手順は、これで完了です。

DLP-G235 MXP_MR_2.5G カードおよび MXPP_MR_2.5G カードのカード設定の変更

目的	この作業では、MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のマックスポンダカードのカード設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



(注)

カード設定は、ファシリティが Out-Of-Service (OOS; アウト オブ サービス) の場合にだけ変更可能です。

- ステップ 1** ノード ビューで、カード設定を変更する MXP_MR_2.5G カードまたは MXPP_MR_2.5G カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** Provisioning > Card タブをクリックします。
- ステップ 3** [表 5-34](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。

表 5-34 MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のマックスポンダ カードの設定

パラメータ	内容	オプション
Card Mode	動作モードを設定します (サポート対象が SONET/SDH ペイロードだけのオプション)。 注: この設定は、現在サポートされていません。現在可能なオプションは FC-GE のみです。	<ul style="list-style-type: none"> • FC-GE
Wavelength	DWDM 側の光トランスミッタの波長を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • 調整可能な最初の波長 • その他の波長 (ITU 準拠の 100 GHz 間隔) • サポートされている波長はホワイトで表示され、アスタリスク (**) のマークが付けられます。サポートされていない波長はグレーで表示されます。



(注)

使用できる 4 つの波長はウィンドウの Card Parameters セクションに表示されます。また、Maintenance > Info サブタブをクリックすることでも表示できます。

- ステップ 4** Apply をクリックします。
- ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G236 MXP_MR_2.5G カードおよび MXPP_MR_2.5G カードの回線設定の変更

目的	この作業では、MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のマックスポンダカードの回線設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

- ステップ 1** ノード ビューで、回線設定を変更する MXP_MR_2.5G カードまたは MXPP_MR_2.5G カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > Line** タブをクリックし、さらに **Client**、**Distance Extension**、**SONET (ANSI)** または **SDH (ETSI)**、**Section Trace** タブのいずれか 1 つをクリックします。表示されるタブおよび選択できるパラメータは、PPM プロビジョニングによって異なります。
- ステップ 3** [表 5-35](#) に記載されている **Client** タブの設定を変更します。

表 5-35 MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のマックスポンダ カードの回線 Client タブ設定

パラメータ	内容	オプション
Port #	(表示専用) ポート番号	<ul style="list-style-type: none"> • 1 • 2 • 3 • 4 • 5 • 6 • 7 • 8 • 9 (MXP_MR_2.5G のトランク) または 9 ~ 10 (MXPP_MR_2.5G のトランク)
Port Name	表示されている各ポートに論理名を割り当てるには、このフィールドに入力します。	<p>ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトはブランクです。</p> <p>「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」 (p.7-10) を参照してください。</p>
Admin State	ポートのサービス状態を設定します (ネットワークの状態によっては変更できない場合もあります)。管理状態の詳細については、 付録 C 「DWDM カードの管理状態とサービス状態」 を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> • IS (ANSI) または Unlocked (ETSI) • IS,AINS (ANSI) または Unlocked,automaticInService (ETSI) • OOS,DSBLD (ANSI) または Locked,disabled (ETSI) • OOS,MT (ANSI) または Locked,maintenance (ETSI)

表 5-35 MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のマックスポンダカードの回線 Client タブ設定 (続き)

パラメータ	内容	オプション
Service State	自律的に生成された状態を判別します (この状態が、ポートの全般的な状態となります)。Service State の表示形式は、Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State です。サービス状態の詳細については、付録 C 「DWDM カードの管理状態とサービス状態」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> IS-NR (ANSI) または Unlocked-enabled (ETSI) OOS-AU,AINS (ANSI) または Unlocked-disabled, automaticInService (ETSI) OOS-MA,DSBLD (ANSI) または Locked-enabled,disabled (ETSI) OOS-MA,MT (ANSI) または Locked-enabled,maintenance (ETSI)
ALS Mode	自動レーザー遮断機能を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> Disable (デフォルト) : Auto Restart Manual Restart Manual Restart for Test
SF BER ¹	(OC-N と STM-N ペイロードのみ) 信号損失ビットエラー レートのスレッシュホールドを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 1E-3 1E-4 1E-5
SD BER ¹	(OC-N と STM-N ペイロードのみ) 信号劣化ビットエラー レートのスレッシュホールドを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 1E-5 1E-6 1E-7 1E-8 1E-9
AINS Soak	(OC-N と STM-N ペイロードのみ) オート インサービスのソーク期間を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> hh:mm 形式で表された有効な入力信号の存続期間。この期間を経過したあと、カードは自動的にインサービス (IS) に設定されます。 0 ~ 48 時間 (15 分刻み)
Type	光転送タイプ	<ul style="list-style-type: none"> SONET SDH
Reach	クライアント ポートの光の到達距離を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> Reach オプションは、選択されたトラフィックタイプによって異なります。
Wavelength	クライアント ポートの波長を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> 調整可能な最初の波長 その他の波長 : 1310 nm、 1550 nm ITU 準拠の 100 GHz 間隔 CWDM 間隔 サポートされている波長はアスタリスク (**) のマークが付けられます。

1. BER スレッシュホールドおよび SD スレッシュホールドは、トランク ポート (MXP_MR_2.5G ではポート 9、MXPP_MR_2.5G ではポート 9 ~ 10) だけに当てはまります。

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G237 MXP_MR_2.5G カードおよび MXPP_MR_2.5G カードの距離拡張設定の変更

目的	この作業では、MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のマックスポンダカードの距離拡張設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



(注) 距離拡張設定は、ファシリティが OOS の場合にだけ変更可能です。



(注) 距離拡張パラメータは、クライアント ポート (1 ~ 8) だけに当てはまり、トランク ポート (MXP_MR_2.5G カードではポート 9、MXPP_MR_2.5G カードではポート 9 および 10) には当てはまりません。

-
- ステップ 1** ノードビューで、距離拡張設定を変更する MXP_MR_2.5G カードまたは MXPP_MR_2.5G カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > Line > Distance Extension** タブをクリックします。タブとパラメータの選択肢は、PPM プロビジョニングによって異なります。
- ステップ 3** [表 5-36](#) に記載されている Distance Extension タブの設定を変更します。

表 5-36 MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のマックスポンダカードの回線距離拡張設定

パラメータ	内容	オプション
Port #	(表示専用) ポート番号	<ul style="list-style-type: none"> • 1 • 2 • 3 • 4 • 5 • 6 • 7 • 8 • 9 (MXP_MR_2.5G のトランク) または 9 ~ 10 (MXPP_MR_2.5G のトランク)
Enable Distance Extension	FC1G の場合は最大 1600 km、FC2G の場合は最大 800 km のエンドツーエンド距離を可能にします。距離拡張をイネーブルにする場合は、接続したファイバチャネルのスイッチを、Interop モードまたは Open Fabric モード (ファイバチャネルスイッチによって異なります) に設定してください。デフォルトでは、MXP_MR_2.5G カードおよび MXPP_MR_2.5G カードは、シスコの MDS ストレージ製品と相互運用できます。	オンまたはオフ
Auto Detect Credits	FC フロー制御用にバッファ クレジットを自動検出します。	オンまたはオフ
Credits Available	(表示専用) 使用可能なバッファ クレジット数を表示します。	数値 (カードに接続されたクライアント装置によって範囲は異なる)
Autothreshold GFP Buffers	2 枚の MXP_MR_2.5G カード間、または 2 枚の MXPP_MR_2.5G カード間の GFP バッファのスレッシュホールドの自動調整をイネーブル / ディセーブルにします。	オンまたはオフ
GFP Buffers Available	2 枚の MXP_MR_2.5G カード間、または 2 枚の MXPP_MR_2.5G カード間で使用可能な GFP バッファ数を表示します。	数値

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G238 MXP_MR_2.5G カードおよび MXPP_MR_2.5G カードの OC-48/STM-16 設定の変更

目的	この作業では、MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のマックスポンダカードの OC-48/STM-16 設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



(注) OC-48/STM-16 設定は、トランク ポート (MXP_MR_2.5G カードではポート 9、MXPP_MR_2.5G カードではポート 9 および 10) だけに当てはまります。

- ステップ 1** ノード ビューで、OC-48/STM-64 設定を変更する MXP_MR_2.5G カードまたは MXPP_MR_2.5G カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > Line > SONET (ANSI)**、または **SDH (ETSI)** タブをクリックします。タブとパラメータの選択肢は、PPM プロビジョニングによって異なります。
- ステップ 3** [表 5-37](#) に記載されている SONET または SDH タブの設定を変更します。

表 5-37 MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のマックスポンダ カードの回線 SONET または SDH タブ設定

パラメータ	内容	オプション
Port #	(表示専用) ポート番号	<ul style="list-style-type: none"> • 1 • 2 • 3 • 4 • 5 • 6 • 7 • 8 • 9 (MXP_MR_2.5G のトランク) または 9 ~ 10 (MXPP_MR_2.5G のトランク)
Port Name	指定したポートに名前を割り当てます。	<p>ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトはブランクです。</p> <p>「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」 (p.7-10) を参照してください。</p>

表 5-37 MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のマックスポンダカードの回線 SONET または SDH タブ設定 (続き)

パラメータ	内容	オプション
Admin State	ポートのサービス状態を設定します (ネットワークの状態によっては変更できない場合もあります)。管理状態の詳細については、付録 C 「DWDM カードの管理状態とサービス状態」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> IS (ANSI) または Unlocked (ETSI) IS,AINS (ANSI) または Unlocked,automaticInService (ETSI) OOS,DSBLD (ANSI) または Locked,disabled (ETSI) OOS,MT (ANSI) または Locked,maintenance (ETSI)
Service State	自律的に生成された状態を判別します (この状態が、ポートの全般的な状態となります)。Service State の表示形式は、Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State です。サービス状態の詳細については、付録 C 「DWDM カードの管理状態とサービス状態」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> IS-NR (ANSI) または Unlocked-enabled (ETSI) OOS-AU,AINS (ANSI) または Unlocked-disabled, automaticInService (ETSI) OOS-MA,DSBLD (ANSI) または Locked-enabled,disabled (ETSI) OOS-MA,MT (ANSI) または Locked-enabled,maintenance (ETSI)
SF BER ¹	信号損失ビット エラー レートを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 1E-3 1E-4 1E-5
SD BER ¹	信号劣化ビット エラー レートを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 1E-5 1E-6 1E-7 1E-8 1E-9
AINS Soak	オート イン サービスのソーク期間を設定します。時間をダブルクリックし、上下の矢印を使用して、設定を変更します。	<ul style="list-style-type: none"> hh:mm 形式で表された有効な入力信号の存続期間。この期間を経過したあと、カードは自動的にイン サービス (IS) に設定されます。 0 ~ 48 時間 (15 分刻み)
Type	光転送タイプ	<ul style="list-style-type: none"> SONET (ANSI) SDH (ETSI)
ALS Mode	自動レーザー遮断機能モードを設定します。DWDM トランスミッタは、ITU-T G.644 (06/99) に従って ALS をサポートします。ALS は、ディセーブルにするか、3 通りのモード オプションに設定できます。	<ul style="list-style-type: none"> Disable (デフォルト) : ALS はオフです。トラフィックの停止 (LOS) が発生しても、レーザーが自動的に遮断されることはありません。 Auto Restart : ALS はオンです。トラフィックの停止 (LOS) が発生すると、レーザーは自動的に遮断されます。停止の原因となった状態が解消されると、レーザーは自動的に再起動されます。 Manual Restart : ALS はオンです。トラフィックの停止 (LOS) が発生すると、レーザーは自動的に遮断されます。ただし、停止の発生状態の解消後、レーザーを手動で再起動する必要があります。 Manual Restart for Test : テスト用に手動でレーザーを再起動させます。

1. BER スレッシュホールドおよび SD スレッシュホールドは、トランク ポート (MXP_MR_2.5G ではポート 9、MXPP_MR_2.5G ではポート 9 ~ 10) だけに当てはまります。

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G239 MXP_MR_2.5G カードおよび MXPP_MR_2.5G カードのセクショントレースの設定の変更

目的	この作業では、MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のマックスポンダカードのセクショントレース設定を変更します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノードビューで、セクショントレース設定を変更する MXP_MR_2.5G カードまたは MXPP_MR_2.5G カードをダブルクリックします。

ステップ 2 **Provisioning > Line > Section Trace** タブをクリックします。タブとパラメータの選択肢は、PPM プロビジョニングによって異なります。

ステップ 3 [表 5-38](#) に記載されている Section Trace タブの設定を変更します。

表 5-38 MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のマックスポンダカードの回線 Section Trace タブ設定

パラメータ	内容	オプション
Port	(表示専用) ポート番号	<ul style="list-style-type: none"> 9 (MXP_MR_2.5G のトランク) または 9 ~ 10 (MXPP_MR_2.5G のトランク)
Trace Mode	トレース モードを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> Off/None Auto Manual
Section Trace String Size	トレースの文字列サイズを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 1 バイト 16 バイト
Transmit	現在の伝送文字列の表示、および新規の伝送文字列の設定	トレース文字列サイズの文字列
Expected	現在の予測文字列の表示、および新規の予測文字列の設定	トレース文字列サイズの文字列
Received	(表示専用) 現在の受信文字列を表示します。	トレース文字列サイズの文字列

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G240 MXP_MR_2.5G カードおよび MXPP_MR_2.5G カードの回線スレッシュホールド設定の変更

目的	この作業では、MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のマックスポンダカードの回線スレッシュホールド設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノード ビューで、回線スレッシュホールド設定を変更する MXP_MR_2.5G カードまたは MXPP_MR_2.5G カードをダブルクリックします。

ステップ 2 **Provisioning > Line Thresholds** タブをクリックします。

ステップ 3 [表 5-39](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。

表 5-39 MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のマックスポンダカードの回線スレッシュホールド設定

RMON スレッシュホールド ¹		
Index	スレッシュホールドの識別子	数値
Slot/Port	スレッシュホールドが適用されるスロットとポートの識別子	Sx/Px (x は数値)
Variable	スレッシュホールド定義で勘案される、特定の Remote Monitoring (RMON; リモート モニタリング) カウント	文字列ニーモニック (gfpStatsRxSBitErrors など)
Alarm Type	アラームをイネーブルにする方向	<ul style="list-style-type: none"> • Rising • Falling
Sample Type	サンプルが絶対か相対か	<ul style="list-style-type: none"> • Absolute • Relative
Sample Period	変数の RMON カウントが累積される秒数	数値 (秒)
Rising Threshold	上限スレッシュホールド	数値
Falling Threshold	下限スレッシュホールド	数値
SONET スレッシュホールド ²		
Port	(表示専用) ポート番号	<ul style="list-style-type: none"> • 9 (MXP_MR_2.5G のトランク) • 9 ~ 10 (MXPP_MR_2.5G のトランク)
CV	符号化違反	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは回線 (遠端のみ)、セクション、パスのいずれかに設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。

表 5-39 MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のマックスポンダ カードの回線スレッシュホールド設定 (続き)

RMON スレッシュホールド ¹		
ES	エラー秒数	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは回線 (遠端のみ)、セクション、パスのいずれかに設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
SES	重大エラー秒数	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、あるいは回線 (遠端のみ)、セクション、パスのいずれかに設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
SEFS	(セクションのみ) 重大エラー フレーム秒数	数値。15 分または 1 日間隔で、セクションのみに設定できます (遠端のみ)。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
FC	(回線のみ) 障害カウント	数値。近端または遠端、15 分または 1 日間隔、回線のみいずれかに設定できます。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。
UAS	(回線のみ) 使用不可秒数	数値。15 分または 1 日間隔で、回線のみに設定できます (遠端または遠端)。黒点を選択し、 Refresh をクリックします。

1. RMON スレッシュホールドは、すべてのデータ タイプに当てはまります。ポートに回線スレッシュホールドを定義するためには、PPM を定義しておく必要があります。これは、クライアントポート 1～8 および GFP ファシリティ (MXP_MR_2.5G ではトランク ポート 9、MXPP MR 2.5G ではトランク ポート 9～10) だけに当てはまります。
2. SONET スレッシュホールドは、トランク ポート (MXP_MR_2.5G では 9、MXPP_MR_2.5G では 9～10) だけに当てはまります。

ステップ 4 Apply をクリックします。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G307 MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のトランク ポート アラームと TCA スレッシュホールドのプロビジョニング

目的	この作業では、MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G トランク ポート アラームと TCA スレッシュホールドを変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ 1 ノード ビューで、トランク ポート アラームと TCA 設定を変更する MXP_MR_2.5G または MXPP_MR_2.5G カードをダブルクリックします。

ステップ 2 Provisioning > Optical Thresholds タブをクリックします。

- ステップ 3** RX Power High のトランクポート TCA スレッシュホールドを -9 dBm に、RX Power Low を -23 dBm にプロビジョニングします。
- ステップ 4** Types の下で、**Alarm** オプション ボタンをクリックし、次に **Refresh** をクリックします。
- ステップ 5** RX Power High のトランクポートアラーム スレッシュホールドを -7 dBm に、RX Power Low を -26 dBm にプロビジョニングします。
- ステップ 6** **Apply** をクリックします。
- ステップ 7** 元の手順 (NTP) に戻ります。

DLP-G308 MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G のクライアントポートアラームと TCA スレッシュホールドのプロビジョニング

目的	この作業では、MXP_MR_2.5G および MXPP_MR_2.5G カードのクライアントポートアラームと TCA スレッシュホールドをプロビジョニングします。
ツール/機器	なし
事前準備手順	DLP-G278 光回線レートのプロビジョニング (p.5-5) DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-30)
必須/適宜	必須
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

- ステップ 1** ノード ビューで、クライアントポートアラームと TCA 設定を変更する MXP_MR_2.5G または MXPP_MR_2.5G カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > Optics Thresholds** タブをクリックします。TCA スレッシュホールドはデフォルトで表示されます。
- ステップ 3** [表 5-18](#) を参照しながら、反対側にあるクライアントインターフェイスに基づいた RX Power High、RX Power Low、TX Power High、TX Power Low の TCA スレッシュホールドをプロビジョニングします。クライアント SFP および XFP のインターフェイス (PPM) に関する詳細は、『Cisco ONS 15454 Reference Manual』の「Hardware Specifications」の章を参照してください。
- ステップ 4** **Apply** をクリックします。

表 5-40 クライアント インターフェイス アラームおよび TCA スレッシュホールド : MXP_MR_2.5G カードおよび MXPP_MR_2.5G カード

ポート タイプ (CTC)	PPM (XFP)	Alarm RX Power Low	Alarm RX Power High	Alarm TX Power Low	Alarm TX Power High	TCA RX Power Low	TCA RX Power High	TCA TX Power Low	TCA TX Power High
FC1G	15454-SFP-GEFC-SX 15454E-SFP-GEFC-S	-20	3	-13	-1	-17	0	-16	3
	15454-SFP-GE+-LX 15454E-SFP-GE+-LX	-23	0	-13	0	-20	-3	-16	3
FC2G	15454-SFP-GEFC-SX 15454E-SFP-GEFC-S	-18	3	-13	-1	-15	0	-16	3
	15454-SFP-GE+-LX 15454E-SFP-GE+-LX	-23	0	-13	0	-20	-3	-16	3
FICON1G	15454-SFP-GEFC-SX 15454E-SFP-GEFC-S	-20	3	-13	-1	-17	0	-16	3
	15454-SFP-GE+-LX 15454E-SFP-GE+-LX	-23	0	-13	0	-20	-3	-16	3
FICON2G	15454-SFP-GEFC-SX 15454E-SFP-GEFC-S	-20	3	-13	-1	-17	0	-16	3
	15454-SFP-GE+-LX 15454E-SFP-GE+-LX	-23	0	-13	0	-20	-3	-16	3
ONE_GE	15454-SFP-GEFC-SX 15454E-SFP-GEFC-S	-20	3	-13	-1	-17	0	-16	3
	15454-SFP-GE+-LX 15454E-SFP-GE+-LX	-23	0	-13	0	-20	-3	-16	3

ステップ 5 ステップ 3 および 4 を繰り返し、さらにクライアントポートをプロビジョニングします。

ステップ 6 Types の下で、**Alarm** オプション ボタンをクリックし、次に **Refresh** をクリックします。

ステップ 7 表5-18を参照しながら、プロビジョニングするクライアントインターフェイスに基づいた RX Power High、RX Power Low、TX Power High、TX Power Low のアラーム スレッシュホールドをプロビジョニングします。

ステップ 8 **Apply** をクリックします。

ステップ 9 ステップ 7 および 8 を繰り返し、さらにクライアントポートをプロビジョニングします。それ以外は、**ステップ 10** に進んでください。

ステップ 10 元の手順 (NTP) に戻ります。